

令和 5 年度 知床国立公園における海鳥の分布 調査等業務



知床五湖の断崖沖から知床連山を望む

2024 年 3 月
特定非営利活動法人 バードリサーチ

目次

1. 業務概要 (2 p)
 - 1-1. 目的 (2 p)
 - 1-2. 業務内容 (2 p～3 p)
2. 業務結果 (4 p)
 - 2-1. 羅臼側における海鳥の分布調査 (4 p)
 - 2-1-1. 陸上からの海鳥分布調査
 - ＜調査範囲＞ (4 p) ＜調査方法＞ (4p)
 - 羅臼側陸上からの海鳥調査時の気象条件 (5 p)
 - ＜調査結果および考察＞ (6p)
 - 1) 各区域と調査日の結果考察 (6 p～20 p)
 - 2) 各鳥種についての各論 (21 p～39 p)
 - 2-1-2. 海上からの海鳥分布調査 (40 p～47 p)
 - ＜調査範囲＞ (40 p) ＜調査方法＞ (41 p)
 - ＜調査結果および考察＞ (42P)
 - 1) 各区域と調査日の結果考察 (42 p～44p)
 - 2-1-3. まとめ (45 p)
 - 観光船からの補足調査 (46 p～49 p)
 3. ケイマフリ生息状況調査 (50 p～58 p)
 - 3-1. ケイマフリ海上分布 (50 p～53 p)
 - ＜調査方法＞ (50 p)
 - ＜調査結果＞ (51～53 p)
 - 3-2. ケイマフリ繁殖状況調査 (53 p～58 p)
 - ＜調査方法＞ (53 p)
 - ＜調査結果＞ (54 p～55 p)
 - 3-3. ケイマフリ餌資源調査 (56p～57 p)
 - 3-4. ケイマフリ生息状況についての考察 (58 p)
 4. 知床半島ウトロ地域における海鳥繁殖のオジロワシ生息調査 (59 p～60p)
 - ＜調査目的＞ (59 p)
 - ＜調査方法＞ (59 p～60p)
 - ＜調査結果＞ (60p)
 - ＜考察＞ (60p)
 - 5 知床半島における海鳥の営巣状況 (61 p～68 p)
 - 調査結果と各海鳥の営巣状況と考察 (62p～68 p)
 - 6 知床世界自然遺産地域科学委員会海域ワーキンググループの資料案の作成 (69p～75p)

2. 業務結果

2-1. 羅臼側における海鳥の分布調査

2-1-1. 陸上からの海鳥分布調査

<調査範囲>

羅臼町内の沿岸およびその海域（峯浜沖～相泊沖）。平成 27 年度の調査結果をもとに調査地点を選定した。

地点については、羅臼町内の海域（峯浜沖～相泊沖）を以下の 15 区間に分けて作成した。

①峯浜（駐車帯）、②春日町（春茹古丹橋・消火栓春日 2）、③麻布漁港、④松法漁港、⑤礼文（礼文・羅臼道の駅）、⑥羅臼港、⑦ロウソク岩（材木岩トンネル北出口）、⑧サシルイ、⑨天狗岩、⑩知円別（知円別トンネル北出口・知円別港）、⑪北浜覆道、⑫ルサ（ルサフィールドハウス・知床橋）、⑬昆布浜、⑭セセキ岩、⑮相泊（相泊港）

<調査方法>

図-3～17 中の区域上で安全に駐車でき、また住民の生活の支障にならない場所を観察ポイントとした（図-3～17 の赤丸）。

調査日の設定は、できるだけ天候の良い、観察に適した光線の良い日の午前中を選んで 4 月～翌年 3 月まで月 2 回陸上からの観察を行った。各調査日および調査時の気象条件については、陸上からの海鳥調査時の気象条件（表-1）に示した。

調査には、防振双眼鏡 12 倍と望遠鏡 20 倍～60 倍を利用し、見える範囲に出現したすべての海鳥、海棲哺乳類の種名、個体数を記録した。なお、気象条件等により観察条件は変化した。調査条件のうち海水温など実地で不明であった事項は、日本気象協会のホームページ（https://www.data.jma.go.jp/kaiyou/shindan/index_sst.html）から引用した。

表-1) 羅臼側陸上からの海鳥調査時の気象条件

日付	天候	波高	海水温(平年比)	気温	風向	風速	種類数	個体数
4月21日	晴れ	1m	3°C(+1°C)	11.0°C	北西	3.9m/s	7	2078
4月27日	晴れ	1m	3°C(+1°C)	8.7°C	北	3.0m/s	10	2911
5月9日	晴れ	1.5m	3°C(+1°C)	11.2°C	南東	2.4m/s	9	2128
5月25日	晴れ	1m	6°C(+1°C)	17.9°C	東	3.2m/s	7	1595
6月9日	曇り	1m	9°C(+2°C)	13.8°C	東	1.2m/s	4	1183
6月20日	曇り	0.5m	12°C(+1°C)	13.9°C	北西	4.5m/s	6	1832
7月17日	曇り	1m	15°C(+2°C)	15.9°C	南東	1.6m/s	5	1539
7月31日	曇り	0.5m	21°C(+5°C)	29.3°C	南南西	1.1m/s	6	1181
8月14日	曇り	1m	18°C(+5°C)	17.2°C	南東	2.5m/s	8	1089
8月31日	曇り	0.5m	21°C(+3°C)	22.0°C	東北東	0.5m/s	5	998
9月12日	晴れ	1m	18°C(+3°C)	26.1°C	東	2.3m/s	7	1859
9月22日	曇り	1m	18°C(+3°C)	19.0°C	南東	2.7m/s	7	1741
10月12日	晴れ	1m	15°C(+2°C)	17.5°C	北北西	4.1m/s	11	1641
10月30日	晴れ	0.5m	12°C(+2°C)	11.7°C	南東	2.3m/s	12	2315
11月24日	曇り	1m	9°C(+1°C)	6.4°C	北西	8.1m/s	16	2785
11月29日	晴れ	1m	9°C(+1°C)	1.0°C	北西	2.7m/s	13(sp.含む)	3296
12月23日	晴れ	1m	6°C(+1°C)	-4.3°C	北西	5.4m/s	14	1001
12月30日	雪	1m	5°C(+1°C)	-2.0°C	北北西	5.3m/s	8	1532
1月21日	曇り	1.5m	3°C(+1°C)	-5.3°C	南東	2.7m/s	11(sp.含む)	836
1月30日	晴れ	1m	流氷	1.5°C	北北西	3.4m/s	19(sp.含む)	969
2月14日	晴れ	0m	流氷	9.9°C	北西	5.4m/s	13	562
2月23日	晴れ	0m	流氷	-7.7°C	南南東	2.8m/s	11	1099
3月6日	晴れ	0m	流氷	-1.3°C	南東	3.4m/s	10(sp.含む)	1252
3月8日	晴れ	0m	流氷	-2.8°C	南東	2.3m/s	10	1780

<調査結果及び考察>

1) 羅臼側各区域と調査日の結果考察

① 峯浜地区



図-1) 峯浜地区調査地点

表-2) 峯浜地区で観察された海鳥

鳥種\月日	4/21	4/27	5/9	5/25	6/9	6/20	7/17	7/31	8/14	8/31	9/12	9/22	10/12	10/30	11/24	11/29	12/23	12/30	1/21	1/30	2/14	2/23	3/6	3/8	合計
1 ハム sp.																				1					1
2 アビ																	1								1
3 ハジロカイツブリ															1		1								1
4 アカエリカイツブリ															3					1					4
5 ミズナギドリ sp.						300																			300
6 ウミウ												2		2											4
7 ヒメウ	1											8		4	2					4	3		10	8	40
8 ホオジロガモ		2																							2
9 クロガモ	34	4											1		4		3			19	6		22		93
10 シノリガモ	20	28										2			4	4	2	2		12	3	1	4	2	84
11 ウミアイサ	14	6	6											5		36							4	2	73
12 カワアイサ																	1								1
13 ユリカモメ															2	4									6
14 セグロカモメ																1									1
15 オオセグロカモメ	4	2		2	6	4	17	6	3	2	3	11	2	4	15	15			1	5		4	3		109
16 カモメ															2	486			2						490
17 ウミネコ			2				1				1	23	1		2										30
18 ケイマフリ																			1	1			1		3
19 ウトウ						22																			22
合計	73	42	8	2	28	304	18	6	3	2	4	46	4	15	35	546	7	2	0	41	18	1	45	15	1265

知床半島の基部に位置し、根室海峡のなかで最も国後島に近い位置にある。半島から急激に水深が浅くなり海流の流れによっては湧昇流が起こればプランクトンや小魚が集まりやすい海域である。遠浅ということもあり潜水採餌型のクロガモとシノリガモそしてウミアイサが多く観察された。クロガモやシノリガモの潜水性で底生生物を捕食し、ウミアイサは主に魚類を捕食する。6月20日に沖合にハシボソミズナギドリと思われる群が約300羽が観察された。11月29日にはカモメの486羽の群れを観察した

②春日町地区



図-2) 春日町地区調査地点

表-3) 春日町地区で観察された海鳥

鳥種\月日	4/21	4/27	5/9	5/25	6/9	6/20	7/17	7/31	8/14	8/31	9/12	9/22	10/12	10/30	11/24	11/29	12/23	12/30	1/21	1/30	2/14	2/23	3/6	3/8	合計
1 アカエリカイツブリ															1	1									2
2 ミズナギドリsp.						100																			100
3 ウミウ							1					2	1												4
4 ヒメウ	5		2	2								2	2	1	5	8				3			6	9	45
5 ヒドリガモ			2																						2
6 クロガモ																					8				8
7 シノリガモ	4			6				1					14	4	6		4	2	2	2		4	1	236	286
8 ビロードキンクロ			1																						1
9 ウミアイサ	46		8	1										3	35	2				4					99
10 カワアイサ		6																							6
11 ユリカモメ	42	4	184	107									37	114	36	4									528
12 セグロカモメ														2											2
13 オオセグロカモメ	85	12	201	121	20	71	156	144	44	7	3	4	40	39	22	23	5	160	4	6	4	4	2	7	1184
14 シロカモメ															1										1
15 カモメ													1	17	4	234									256
16 ウミネコ	17	2	17	4	4		26	139	360	21	60	13	72	26	80										841
17 ワシカモメ																1									1
18 ミツユビカモメ					1	1							1	18		24									45
19 カモメsp.						18										150									168
20 ケイマフリ																								1	1
21 ウトウ					39	2	21																		62
22 アオサギ								1	2																3
合計	199	24	415	241	64	192	204	284	407	28	63	21	168	224	190	447	9	162	6	15	12	8	9	253	3645
種類数	6	4	7	6	4	5	4	3	4	2	2	4	8	9	9	9	2	2	2	4	2	2	3	4	22

春茹古丹橋と消火栓春日 2 のある海岸の 2 ヶ所で調査した。春茹古丹川の河口ではカモメ類が水浴や水飲みのために集まっていた。春茹古丹川の河口の観察ポイントでは冬期は積雪のため入れなく 12 月 23 日～3 月 8 日まで調査できなかった。2 カ所の環境の違う場所で調査をしたため個体数と種類とも多かった。春茹古丹川の河口では、オオセグロカモメが優占しており、次にウミネコの個体数が多かった。春と秋の渡り期にはユリカモメの個体数が増えた。消火栓春日 2 では 3 月 8 日にシノリガモ 236 羽を確認した。

③八木浜地区



図-3) 八木浜地区調査地点

表-4) 八木浜地区で観察された海鳥

	鳥種\月日	4/21	4/27	5/9	5/25	6/9	6/20	7/17	7/31	8/14	8/31	9/12	9/22	10/12	10/30	11/24	11/29	12/23	12/30	1/21	1/30	2/14	2/23	3/6	3/8	合計
1	ヒメウ																						1		2	3
2	スズガモ				2																					2
3	シノリガモ		1													12		10	6	14	1		2			46
4	ウミアイサ															21										21
5	ユリカモメ		13									1	33	26	69											142
6	セグロカモメ													8	1											9
7	オオセグロカモメ	98	90	81	104	19	4	61	43	39	92	201	186	158	288	148	75	9	114	12	29	12	2	6	8	1879
8	シロカモメ																		6	5						11
9	ウミネコ									15	8	2	6	2												33
10	ウシカモメ																				1		1			2
11	カモメsp.																1300									1300
	合計	98	104	81	106	19	4	61	43	54	100	203	193	193	322	251	1375	19	126	31	31	12	6	6	10	3448
	種類数	1	3	1	2	1	1	1	1	2	2	2	3	3	3	5	2	2	3	3	3	1	4	1	2	11

主に麻布漁港の防波堤の上から観察を行った。1月から3月までは積雪のため堤防上に登れないため麻布漁港内のみでの観察となった。水産加工場に面した砂浜と消波ブロックにオオセグロカモメを中心としたカモメ類が多く集まった。冬期間は港内にシノリガモが入ることがあったが、船などの往来に左右されるようだった。オオセグロカモメは10月30日に288羽と個体数が増えた。11月29日には沖合に識別不能のカモメ類が約1300羽を確認した。この地区は、漁港と水産加工場に隣接していることから、漁船からの魚の搬出などの活動にカモメ類の個体数が左右されていた。

④松法地区

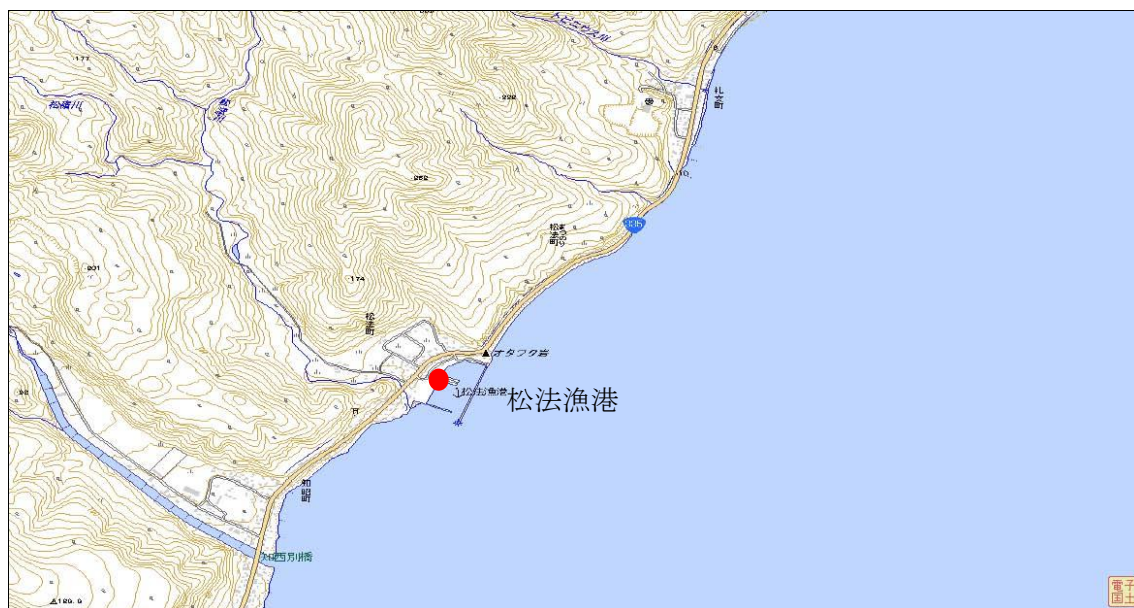


図-4) 松法地区調査地点

表-5) 松法地区で観察された海鳥

鳥種\月日	4/21	4/27	5/9	5/25	6/9	6/20	7/17	7/31	8/14	8/31	9/12	9/22	10/12	10/30	11/24	11/29	12/23	12/30	1/21	1/30	2/14	2/23	3/6	3/8	合計
1 ヒメウ	14	4													8	36	13	51	5	22	3		6	8	170
2 ヒドリガモ																			13						13
3 シバリガモ																	16	34	40						90
4 ユリカモメ	1														6										7
5 オオセグロカモメ	69	114	140	94	57	87	47	46	72	28	76	48	116	80	250	230	112	78	71	73	42	4	23	168	2125
6 シロカモメ															1			6							7
7 ウミネコ	4						1		6		2		5												18
8 ワシカモメ														2	4	1		1	1		1				10
合計	88	118	140	94	57	87	48	46	78	28	78	48	121	82	269	283	159	176	90	95	46	4	29	176	2440
種類数	4	2	1	1	1	1	2	1	2	1	2	1	2	2	5	4	3	5	4	2	3	1	2	2	8

松法漁港での観察となった。オオセグロカモメが優占種で、漁港に入港する漁船からこぼれる魚を狙って集まることが多く、船着き場で休んでいる個体も多く見られた。ヒメウは冬期間に漁港の堤防にへばり付くように止まっているものが観察され、12月29日に51羽が確認された。この防波堤にとまる個体は船舶の航行に左右されることが多かった。

⑤礼文町



図-5) 礼文町区域調査地点

表-6) 礼文町地区で観察された海鳥

鳥種\月日	4/23	4/30	5/12	5/26	6/9	6/15	7/19	7/21	8/3	8/25	9/1	9/22	10/17	10/20	11/13	11/27	12/19	12/29	1/18	1/31	2/7	2/17	3/4	3/7	合計
1 ウミウ				2									10		5										17
2 ヒメウ	1											4	9	13	219	61	35	12	2	2		11	5		374
3 ホオジロガモ																2	4						2		8
4 スズガモ																			27		83		23	53	186
5 クロガモ	4																			6	2	16	4		32
6 シノリガモ	14	2	6										4	16	12	26	18	46	42	48	100	62	4		401
7 ウミアイサ	4	24															12			27	14	10			91
8 カワイアイサ																	14		2			66		25	107
9 ユリカモメ	1	38	16												27			51	24		141	120	45	21	484
10 セグロカモメ													1	2	29				2						34
11 オオセグロカモメ	125	137	97	82	123	243	160	138	74	353	127	181	164	362	1425	148	104	308	207	112	151	231	57	39	5148
12 シロカモメ															8			4	4			1	4		21
13 カモメ																		10				61			71
14 ウミネコ						4		20		34	873	347	612	109	706	38									2743
15 ワシカモメ													2	1			2		2	1					8
16 ミツユビカモメ													19	15											34
合計	149	201	119	84	123	247	160	158	74	387	1000	532	815	507	2436	261	197	393	326	163	453	620	212	142	9759
種類数	6	4	3	2	1	2	1	2	1	2	2	3	6	7	9	5	7	5	10	5	6	9	9	5	16

礼文町の消波ブロックの海岸と羅臼川河口から羅臼漁港の南側の防波堤までの地区で調査を行った。礼文町の消波ブロックではカモメ類とヒメウ・ウミウが休んでおり、道の駅の前浜沖ではシノリガモ・ホオジロガモ・カワイアイサ・ウミアイサなどの潜水採餌カモが観察された。そして、羅臼川は流量も多くカモメ類が水を飲んだり水浴するには適しておりオオセグロカモメを中心に多くのカモメ類が集まった。繁殖期の終わった頃から冬になる前にウミネコが多く見られた。また、ユリカモメが例年春と秋の渡りの時期に多く観察された。

⑥羅臼漁港地区



図-6) 羅臼漁港地区調査地点

表-7) 羅臼漁港地区で觀察された海鳥

	鳥種\月日	4/23	4/30	5/12	5/26	6/9	6/15	7/19	7/21	8/3	8/25	9/1	9/22	10/17	10/20	11/13	11/27	12/19	12/29	1/18	1/31	2/7	2/17	3/4	3/7	合計	
1	ハムsp.	1																									
2	ウミウ							6	21			32		5	6											71	
3	ヒメウ								4			29	4	15		1	35		6	4				1		1	101
4	ホオジロガモ																	4					1				
5	スズガモ																	20						14		6	41
6	シノリガモ																	6	84	10	4			4	4	4	111
7	ウミアイサ																	2						24	2		27
8	カワアイサ																									4	
9	ユリカモメ																33									3	
10	セグロカモメ													2		23										2	
11	オオセグロカモメ	375	749	629	342	558	499	719	794	549	300	370	365	42	222	227	20	81	412	56	16	118	74	183	166	786	
12	シロカモメ																20		1	2	24					4	
13	ウミネコ					2	14	9					145	115	4	2	4								1	2	29
14	ワシカモメ																	1									
15	ミツユビカモメ													25		1										2	
16	ウトウ			4			42	31						2												7	
	合計	376	749	633	342	558	543	770	828	549	300	431	514	206	232	274	92	109	510	94	20	118	118	190	183	873	
	種類数	2	1	2	1	1	3	4	4	1	1	3	3	7	3	6	4	5	6	4	2	1	6	4	6		

羅臼漁港内と羅臼漁港屋上の見晴らしの良い場所で観察を行った。漁港屋上は 1 月以降除雪されておらず漁港から沖側の観察できなかった。羅臼漁港防波堤で繁殖するオオセグロカモメの繁殖状況が観察された。オオセグロカモメの北側の堤防での営巣状況は 6 月 9 日に抱卵中の 141 巣が確認され 6 月 20 日には 236 巣を確認された。7 月 19 日には卵が孵化しており抱卵中の 11 巣と雛 49 羽を確認した。その後、雛は 7 月 31 日 38 羽・8 月 14 日 12 羽と徐々に減少していった。そして 8 月 31 日には巣立ちした幼鳥 1 羽と雛を 1 羽確認したのみとなった。2022 年 58 羽・2021 年は 108 羽の巣立った雛を確認していたが、2023 年はほぼ繁殖に失敗したものと考えられる。

⑦ロウソク岩地区



図-7) ロウソク岩地区調査地点

表-8) ロウソク岩地区で観察された海鳥

鳥種\月日	4/21	4/27	5/9	5/25	6/9	6/20	7/17	7/31	8/14	8/31	9/12	9/22	10/12	10/30	11/24	11/29	12/23	12/30	1/21	1/30	2/14	2/23	3/6	3/8	合計
1 ミズナギドリsp.						30																			30
2 ウミウ		1							1				2												4
3 ヒメウ	4												1		3	2		2					2	2	16
4 シノリガモ		20														4	8	2	3	14	4	3	10	4	72
5 ウミアイサ		19																							19
6 カワアイサ																		8	1						9
7 ユリカモメ		191																							191
8 オオセグロカモメ	12	4	10	30	33	5	15	7		5	3	5	4	20	16	4	2		2	2	4		4		187
9 ウミネコ			2		2		17		5			4		4											34
10 ミツユビカモメ														90											90
11 ウトウ					9	2	4																		15
合計	16	235	12	30	44	37	36	7	5	6	3	9	7	114	19	10	10	12	6	16	8	3	16	6	667
種類数	2	5	2	1	3	3	3	1	1	2	1	2	3	3	2	3	2	3	3	2	2	1	3	2	11

羅臼漁港から材木岩トンネルを出た隧道口バス停車帯で観察を行った。ろうそく岩周辺ではオオセグロカモメが6月9日に抱卵中の8巣を確認したもののそれ以降には抱卵中の巣も雛も観察されなかったことから繁殖は失敗したと思われる。

4月27日に沖合にユリカモメ191羽の鳥山ができていた。10月30日には、ミツユビカモメ90羽を確認した。隧道口バス停下の岩礁には冬期間にシノリガモが滞留していた。

⑧サシルイ地区

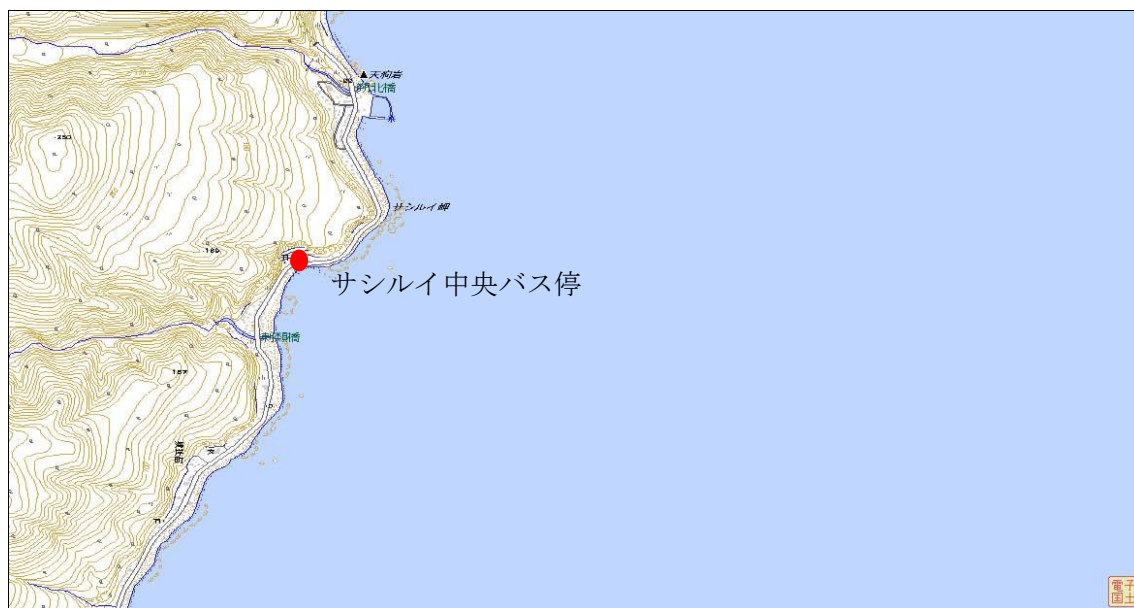


図-8) サシルイ地区調査地点

表-9) サシルイ地区で観察された海鳥

	鳥種\月日	4/21	4/27	5/9	5/25	6/9	6/20	7/17	7/31	8/14	8/31	9/12	9/22	10/12	10/30	11/24	11/29	12/23	12/30	1/21	1/30	2/14	2/23	3/6	3/8	合計	
1	ミズナギドリsp.						10																			10	
2	ウミウ							1			1															2	
3	ヒメウ													2								2	1			4	9
4	オオハクチョウ																							2		2	
5	ホオジロガモ																						1			1	
6	シノリガモ	2	8									3			3	1		4		2	10	20	30	235	274	592	
7	ウミアイサ	6																								6	
8	カワアイサ																					4	2			6	
9	ユリカモメ				73																					73	
10	オオセグロカモメ	14	2	2	6	14	51	1	4	2	11		3		2	6				2	5			8	2	135	
11	ウミネコ								2			3														5	
12	ウトウ					6			5																	11	
	合計	22	10	75	6	20	61	2	11	2	12	3	6	2	5	7	0	4	0	4	15	26	36	243	280	852	
	種類数	3	2	2	1	2	2	2	3	1	2	1	2	1	2	2	0	1	0	2	2	3	5	2	3	12	

サシルイ中央バス停付近にある建築現場事務所周辺で観察した。湾内という地形のためか海鳥の種類数共に少ない地点である。シノリガモが3月6日に235羽・3月8日に274羽と密集して集結しているのを観察した。

⑨天狗岩地区

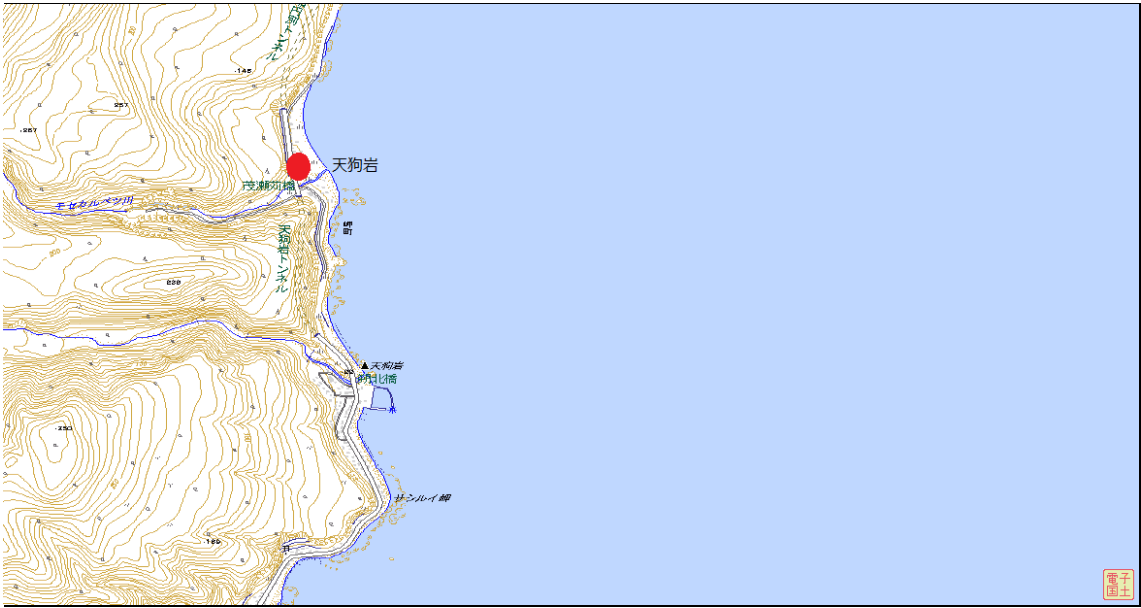


図-9) 天狗岩地区調査地点

表-10) 天狗岩地区で観察された海鳥

鳥種\月日	4/21	4/27	5/9	5/25	6/9	6/20	7/17	7/31	8/14	8/31	9/12	9/22	10/12	10/30	11/24	11/29	12/23	12/30	1/21	1/30	2/14	2/23	3/6	3/8	合計
1 ハムsp.			7																						7
2 ミズナギドリsp.						25																			25
3 ウミウ								1																	1
4 ヒメウ			8					1															1		10
5 カワウ																								20	20
6 マガモ																			1		4				5
7 ホオジロガモ																					2				2
8 シノリガモ	12	2												6	4	4			4	2	20	4	14	20	92
9 ウミアイサ			4																		8				12
10 ユリカモメ		4	20											26	241										291
11 セグロカモメ																1									1
12 オオセグロカモメ	5	36	41	24	16	10		16	1	2	2	24	4	29	8	6	1		26	42		76	44	21	434
13 カモメ														4		30									34
14 ウミネコ		4	2		4		2	73	1	33		28	34	83	12										276
15 ワシカモメ																						1			1
16 ミツユビカモメ														25	62										87
17 カモメsp.																							246		246
18 ウトウ							2																		2
合計	17	46	82	24	20	35	4	91	2	35	2	52	38	173	327	41	1	0	30	45	34	81	305	61	1546
種類数	2	4	6	1	2	2	2	4	2	2	1	2	2	6	5	4	1	0	2	3	4	3	4	3	18

天狗岩の駐車帯で観察を行った。オカバケ川河口にオオセグロカモメを中心としたカモメ類が水を飲むためと水浴のために集まっていた。天狗岩周辺の岩礁と河口付近にシノリガモが繁殖期以外に見られることが多かった。また、オカバケ川河口周辺では、釣り人がいるとほとんどカモメ類がいなくなる日もあった。

⑩知円別地点



図-10) 知円別地区調査地点

表-11) 知円別地区で観察された海鳥

鳥種	4/21	4/27	5/9	5/25	6/9	6/20	7/17	7/31	8/14	8/31	9/12	9/22	10/12	10/30	11/24	11/29	12/23	12/30	1/21	1/30	2/14	2/23	3/6	3/8	合計
1 ウミウ									7			1													8
2 ヒメウ	9	6		1															1	4			10	6	37
3 ホオジロガモ																				1					1
4 スズガモ																	2					2			4
5 クロガモ																									0
6 シノリガモ	8		2												24	24	76	53	34	9	32	58	13	50	383
7 ウミアイサ																	12		2						14
8 カワアイサ																		33			2		1		36
9 ユリカモメ	14	134																							148
10 オオセグロカモメ	223	285	172	209	153	88	100	76	18	111	24	4	1	4	17	6	4	4	12	108	2	152	138	145	2056
11 シロカモメ																				1					1
12 カモメ															1									11	12
13 ウミネコ									1	11	4														16
14 ワシカモメ																	1		1						2
15 ケイマフリ																								1	1
合計	254	425	174	210	153	88	100	76	26	122	28	5	1	4	42	30	95	90	49	119	41	212	163	212	2719
種類数	4	3	2	2	1	1	1	1	3	2	2	2	1	1	3	2	5	3	4	4	5	3	5	4	14

知円別漁港トンネル北出口と知円別漁港で観察した。知円別漁港の外側に離岸堤がありオオセグロカモメの営巣地となっている。オオセグロカモメの繁殖状況は、6月9日54巣・6月20日58巣・7月14日雛44羽と抱卵中の巣が8巣・7月31日は雛が1羽となった。8月14日には雛の姿は確認できなかった。

冬期間に知円別漁港内にシノリガモが見られた。また、4月27日には沖合に渡り途中のユリカモメ134羽を確認した。

⑪ 岩見橋地区



図-11) 岩見橋地区調査地点

表-12) 岩見橋地区で観察された海鳥

鳥種\月日	4/21	4/27	5/9	5/25	6/9	6/20	7/17	7/31	8/14	8/31	9/12	9/22	10/12	10/30	11/24	11/29	12/23	12/30	1/21	1/30	2/14	2/23	3/6	3/8	合計
1 アカエリカイツブリ																				2					2
2 ウミウ								6				1													7
3 ヒメウ																							4	2	7
4 シノリガモ	10													1		2					1	2			16
5 ウミアイサ	3															1									4
6 ユリカモメ		400																							400
7 オオセグロカモメ	7	4	1	1	1	4		1	5		1							1				2	2		30
8 ウミネコ							1		10		3	1			3										18
9 カモメsp.																				150					150
10 ウミガラス																				1					1
合計	20	404	1	1	1	4	1	7	15	0	4	2	0	1	3	3	0	1	0	153	2	4	6	2	635
種類数	3	2	1	1	1	1	1	2	2	0	2	2	0	1	1	2	0	1	0	3	2	2	2	1	10

石見橋の右岸で観察を行った。この地点は海鳥の種類も数も少なかった。4月27日にユリカモメ約400羽が沖合で群れていた。

⑫ルサ地区



図-12) ルサ地区調査地点

表-13) ルサ地区で観察された海鳥

鳥種\月日	4/21	4/27	5/9	5/25	6/9	6/20	7/17	7/31	8/14	8/31	9/12	9/22	10/12	10/30	11/24	11/29	12/23	12/30	1/21	1/30	2/14	2/23	3/6	3/8	合計
1 ウミウ							4	4				8													16
2 ヒメウ															1		1			1	2		7	2	14
3 ホオジロガモ																	2								2
4 シノリガモ	12												1		2			4	8	34	6	24	14	22	127
5 ウミアイサ		6	53																						59
6 カワアイサ															4		6			8			3		21
7 ユリカモメ		150	2																						152
8 オオセグロカモメ	7			1		1	2	6	4	5	2	12	1		4	9			2	1	5	4	4		70
9 ウミネコ							3	4	24	21	6														58
10 ウトウ							26																		26
合計	19	156	55	1	0	1	35	14	28	26	8	20	2	0	11	9	9	4	10	44	13	28	28	24	545
種類数	2	2	2	1	0	1	4	3	2	2	2	2	2	0	4	1	3	1	2	4	3	2	4	2	10

種類と個体数とも少ない地区であった。その中でも、シノリガモが冬期間を中心に確認された。4月27日に沖合にユリカモメ約150羽の群れが沖合で観察された。5月9日にウミアイサの群れ53羽がルサ川河口で確認された。

⑬昆布浜地区

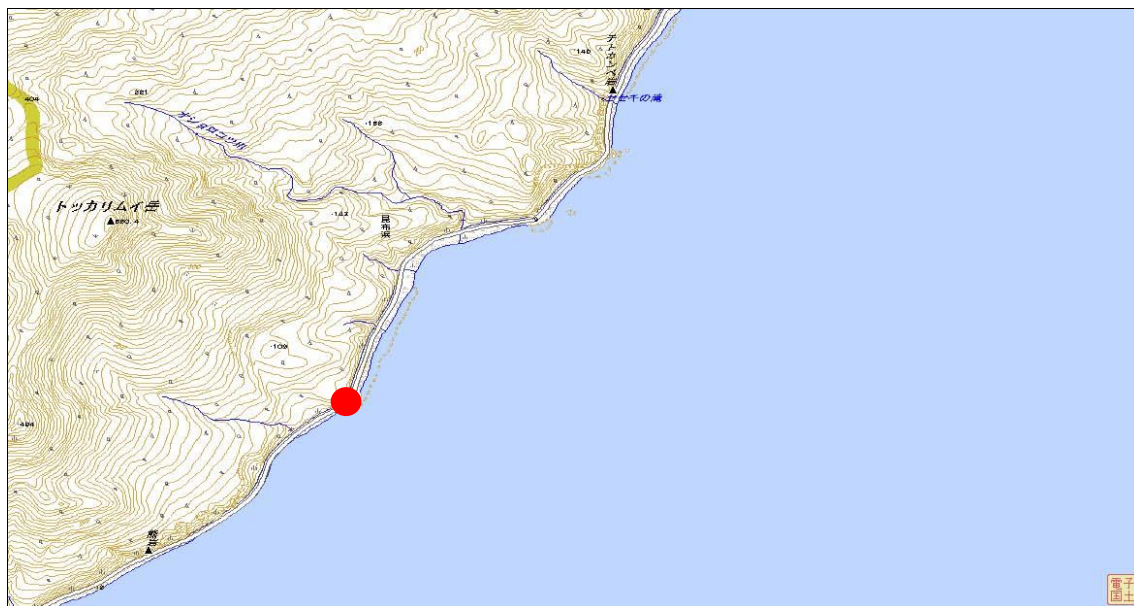


図-13) 昆布浜地区調査地点

表-14) 昆布浜地区で観察された海鳥

鳥種\月日	4/21	4/27	5/9	5/25	6/9	6/20	7/17	7/31	8/14	8/31	9/12	9/22	10/12	10/30	11/24	11/29	12/23	12/30	1/21	1/30	2/14	2/23	3/6	3/8	合計
1 ハムsp.			18																						18
2 ウミウ										1		1													2
3 ヒメウ		6										1		1				1	1						10
4 クログモ																								10	10
5 シノリガモ	10														1	4	6	8	6			365	4	67	471
6 ウミアイサ			4											4											8
7 カワアイサ																			30						30
8 オオセグロカモメ	4	8	1	3	2	1	2		12	7	3		9		1		1		7				2		63
9 ウミネコ								5	16			1													22
10 カモメsp.																			150						150
11 ウトウ							2																		2
合計	14	14	23	3	2	1	4	5	28	8	3	3	9	5	2	4	8	8	194	0	0	365	6	77	786
種類数	2	2	3	1	1	1	2	1	2	2	1	3	1	2	2	1	3	1	5	0	0	1	2	2	11

昆布浜の道路沿いで調査を行った。ハム sp18 羽を確認した。2 月 23 日にはシノリガモの群れ 365 羽が集まっていた

⑭セセキ地区



図-14) セセキ岩調査地点

表-15) セセキ地区で観察された海鳥

	鳥種\月日	4/21	4/27	5/9	5/25	6/9	6/20	7/17	7/31	8/14	8/31	9/12	9/22	10/12	10/30	11/24	11/29	12/23	12/30	1/21	1/30	2/14	2/23	3/6	3/8	合計
1	ハムsp.			19																						19
2	アカエリカイツブリ																1									
3	ミズナギドリsp.						100																			100
4	ウミウ								1	1	1	1														4
5	ヒメウ	6	1													1	1	2		1				6	11	29
6	クロガモ																					6				6
7	シノリガモ	23	14												4	20	15	16	10	34		14		86	166	402
8	ビロードキンクロ																					1				1
9	ウミアイサ	8		2																1						11
10	オオセグロカモメ	6	9	2	7	14	23	4	2		14	22	6	20	4	15	3							43		194
11	ウミネコ				2	1	14	3	11	4		112				7										154
12	ケイマフリ																	1							5	6
13	ウトウ							203	1																	204
	合計	43	24	23	7	16	124	221	7	12	19	23	118	20	8	43	20	19	10	36	0	21	0	135	182	1131
	種類数	4	3	3	1	2	3	3	4	2	3	2	2	1	2	4	4	3	1	3	0	3	0	3	3	

種類数の少ない地区であった。冬期間にシノリガモが見られた7月17日にウトウが203羽が沖合で観察された。

⑮相泊地区



図-15) 相泊地区調査地点

表-16) 相泊地区で観察された海鳥

	鳥種\月日	4/21	4/27	5/9	5/25	6/9	6/20	7/17	7/31	8/14	8/31	9/12	9/22	10/12	10/30	11/24	11/29	12/23	12/30	1/21	1/30	2/14	2/23	3/6	3/8	合計	
1	ミズナギドリsp.						30																			30	
2	ウミウ		6							1		1	2	8	8	2										28	
3	ヒメウ	3	11											1	5	1	6	26		11				6	4	74	
4	シノリガモ	6	7	2							1	21	8	4	11	4	8	6	2	2					6	6	94
5	ウミアイサ														1			1		2						4	
6	オオセグロカモメ	95	3	2	1	4		35	40	27	17	110	83	137	239	34				2					5	43	877
7	ウミネコ							12		10	3	186	288	122	441											1062	
8	ケイマフリ																								3	3	
9	ウトウ					6		304	3																	313	
	合計	104	27	4	1	10	30	351	43	38	21	318	381	272	705	41	14	33	2	17	0	0	0	17	56	2485	
	種類数	3	4	2	1	2	1	3	2	3	3	4	4	5	6	4	2	3	1	4	0	0	0	3	4	9	

アイドマリ川河口でカモメ類が水を飲んだり水浴をしていた。相泊漁港の沖側の防波堤では、オオセグロカモメとウミネコが休んでいた。ウミネコは繁殖期終了後の9月12日に110羽を観察した。7月17日にウトウ304羽沖合で観察された。

・ハム類

表-17) ハムの調査日別個体数の推移 (2023 年 4 月～2024 年 4 月)

月日	4/21	4/27	5/9	5/25	6/9	6/20	7/17	7/31	8/14	8/31	9/12	9/22	10/12	10/30	11/24	11/29	12/23	12/30	1/21	1/30	2/14	2/23	3/6	3/8	合計
ハム類	0	0	44	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	46

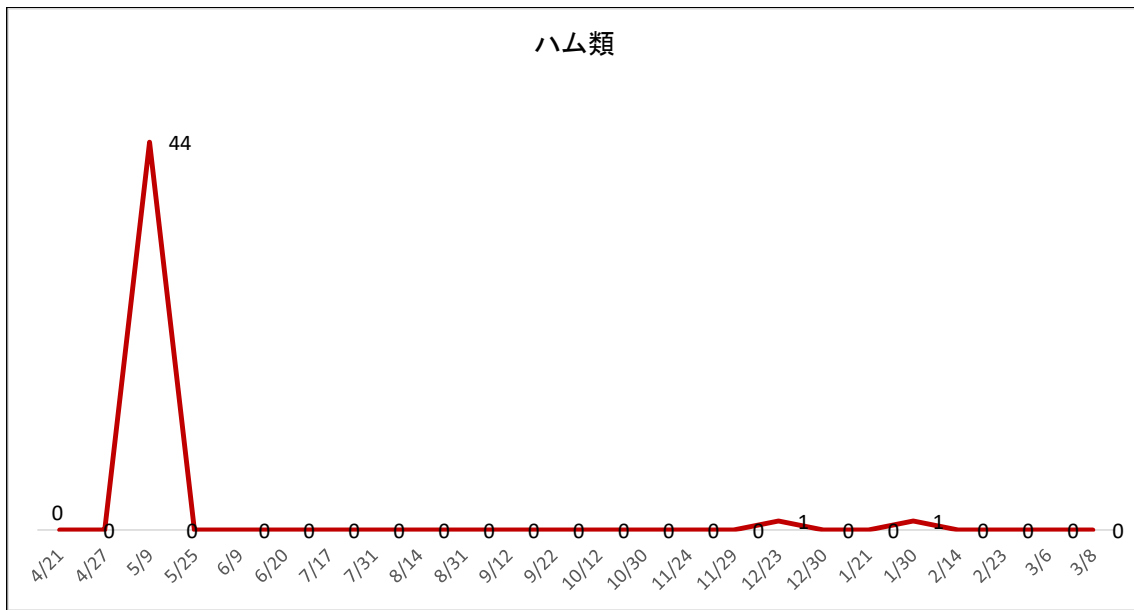


図-16) ハム類の調査日別個体数の推移グラフ (2023 年 4 月～2024 年 3 月)

シロエリオオハムとオオハムは陸上から観察した場合は遠方にいることが多いため、識別が困難なためハム類としてまとめた。シロエリオオハムは北極圏に近い場所で繁殖しオオハムはサハリン北部からカムチャツカ以北で繁殖する。2023 年は、渡途中の通過の 44 羽が確認された。



図-17) シロエリオオハムの冬羽

・ミズナギドリ類

表-18) 2023 年ミズナギドリ類の調査日別個体数の推移 (2023 年 4 月～2024 年 3 月)

月日	4/21	4/27	5/9	5/25	6/9	6/20	7/17	7/31	8/14	8/31	9/12	9/22	10/12	10/30	11/24	11/29	12/23	12/30	1/21	1/30	2/14	2/23	3/6	3/8	合計
ミズナギドリ類	0	0	0	0	0	795	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	795

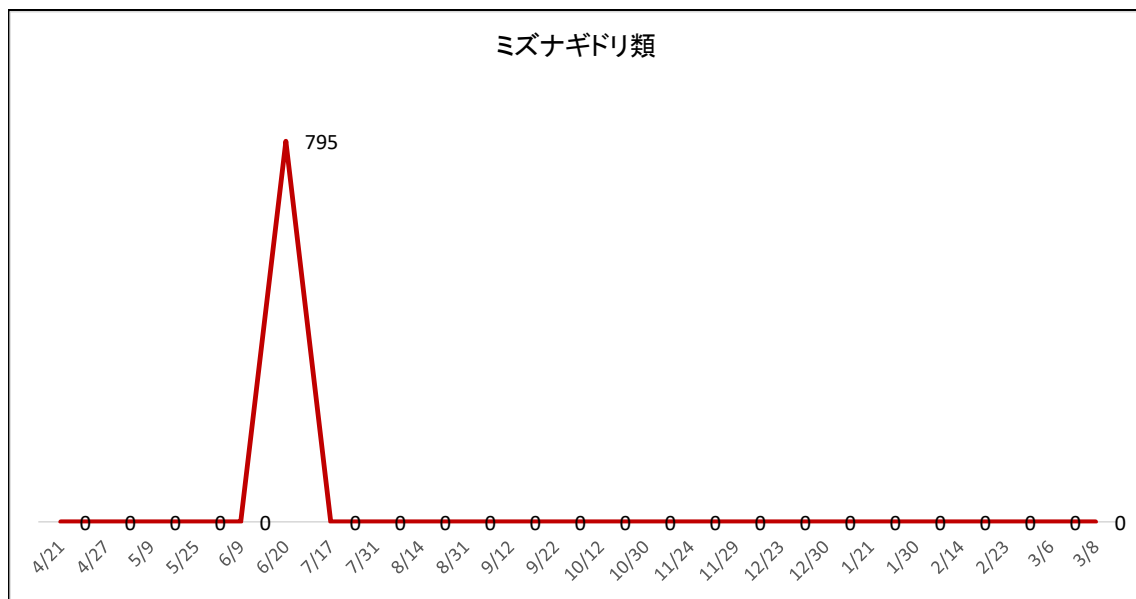


図-18) ミズナギドリ類の調査日別個体数の推移グラフ (2023 年 4 月～2024 年 3 月)

陸上からの観察では、ハシボソミズナギドリとハイイロミズナギドリの識別が難しいのでミズナギドリ sp とした。これまでの海上からの調査ではハシボソミズナギドリが優占種であった。両種ともオーストラリアとニュージーランドの南極海に面した島嶼部で繁殖する。ハシボソミズナギドリはオキアミなどの動物プランクトンを主に捕食し、ハイイロミズナギドリは魚食性が強いので知床半島周辺に飛来する時期が若干違うと考えられる。

2021 年は 6 月 27 日に 21600 羽の最高羽数を確認し 2022 年は 1000 羽、そして 2023 年は 6 月 20 日の 795 羽であった。



図-19) ハシボソミズナギドリ

・ウミウ

表-19) 2023 年ウミウの調査日別個体数の推移 (2023 年 4 月～2024 年 3 月)

月日	4/21	4/27	5/9	5/25	6/9	6/20	7/17	7/31	8/14	8/31	9/12	9/22	10/12	10/30	11/24	11/29	12/23	12/30	1/21	1/30	2/14	2/23	3/6	3/8	合計
ウミウ	0	7	0	0	0	0	6	16	40	4	11	21	17	12	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	137

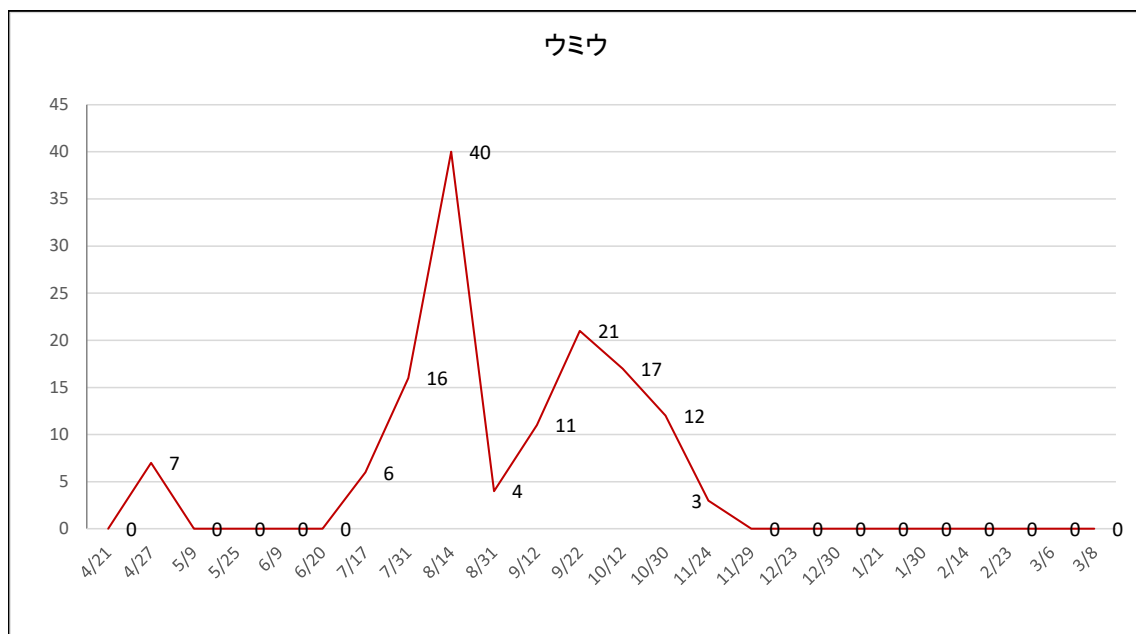


図-20) 2023 年ウミウの調査日別個体数の推移グラフ (2023 年 4 月～2024 年 3 月)

知床半島で繁殖しているが近年営巣数が減少している。繁殖期後半から個体数が増え繁殖期が終了した 8 月 14 日に 40 羽を確認した。冬期間は観察されなかった。



図-21) 港で休むウミウ

・ヒメウ

表-20) 2023 年ヒメウの調査日別個体数の推移 (2023 年 4 月～2024 年 3 月)

月日	4/21	4/27	5/9	5/25	6/9	6/20	7/17	7/31	8/14	8/31	9/12	9/22	10/12	10/30	11/24	11/29	12/23	12/30	1/21	1/30	2/14	2/23	3/6	3/8	合計
ヒメウ	47	30	20	8	0	0	0	1	0	2	3	11	15	18	162	62	49	98	19	32	19	5	60	67	728

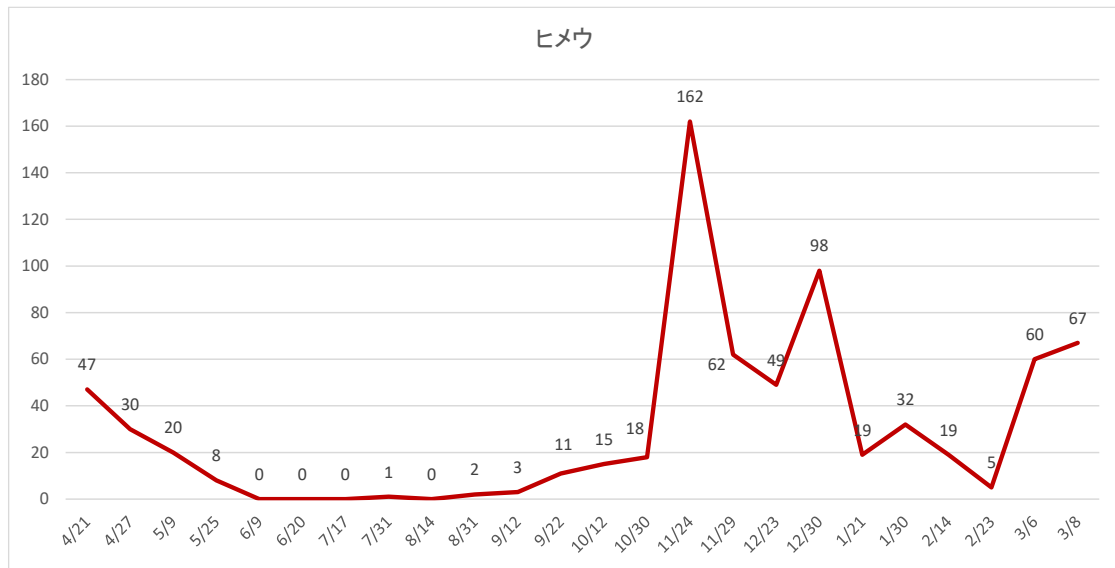


図-22) 2023 年ヒメウの調査日別個体数の推移グラフ (2023 年 4 月～2024 年 3 月)

知床半島では繁殖はしておらず、近隣では千島列島で繁殖している。11 月 24 日に 162 羽が確認されている。渡り途中の個体が多く飛来したものと考えられる。繁殖期にも少数が観察されるが繁殖に参加しない個体が飛来しているものと考えられる。松法漁港や羅臼漁港の堤防の岸壁にへばりつくように止まっている個体も多く見られる。

環境省では、国内では天売島で少数繁殖するのみであることから、絶滅危惧ⅠＢ類に指定されているが、羅臼海域では比較的多くの個体が観察され、この海域はヒメウにとって重要な生息地であると考えられる。



図-23) ヒメウ

・ホオジロガモ

表-21) 2023 年ホオジロガモの調査日別個体数の推移 (2023 年 4 月～2024 年 3 月)

月日	4/21	4/27	5/9	5/25	6/9	6/20	7/17	7/31	8/14	8/31	9/12	9/22	10/12	10/30	11/24	11/29	12/23	12/30	1/21	1/30	2/14	2/23	3/6	3/8	合計
ホオジロガモ	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	28	34	0	5	1	6	2	80

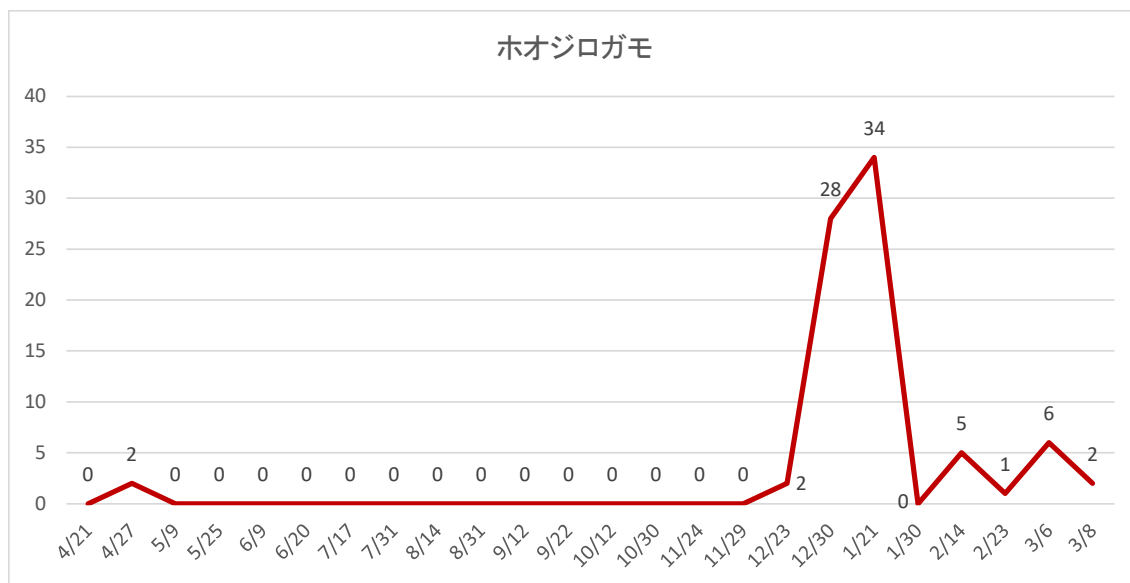


図-24) 2023 年ホオジロガモの調査日別個体数の推移グラフ (2023 年 4 月～2024 年 3 月)

ロシア沿海地域以北で繁殖する。主に冬期間に観察された。12 月 30 日に 28 羽と 1 月 21 日に 34 羽がいずれも羅臼漁港内で確認された。



図-25) ホオジロガモ

・スズガモ

表-22) 2023 年スズガモの調査日別個体数の推移 (2023 年 4 月～2024 年 3 月)

月日	4/21	4/27	5/9	5/25	6/9	6/20	7/17	7/31	8/14	8/31	9/12	9/22	10/12	10/30	11/24	11/29	12/23	12/30	1/21	1/30	2/14	2/23	3/6	3/8	合計
スズガモ	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	12	10	0	0	26

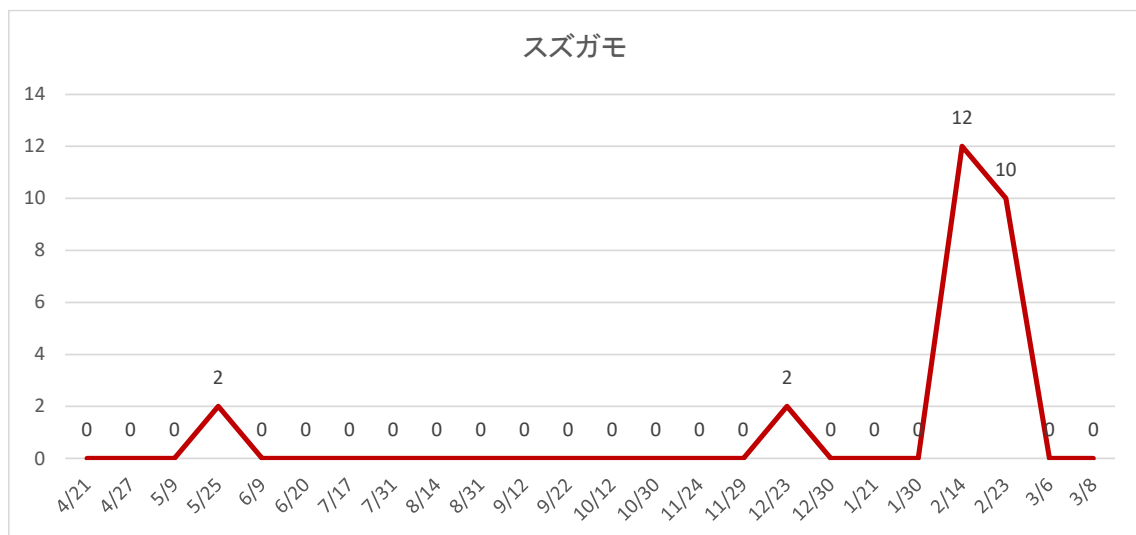


図-26) 2023 年スズガモの調査日別個体数の推移グラフ (2023 年 4 月～2024 年 3 月)

北海道内でも少数が繁殖する。羅臼周辺には主に冬期間に飛来する。2022 年は調査全体で 273 羽を確認したが、2023 年は 26 羽のみとなった。最大個体数も 2022 年は 97 羽に対して、2023 年は 12 羽とかなり減少した。



図-27) スズガモ

・クロガモ

表-23) 2023 年クロガモの調査日別個体数の推移 (2023 年 4 月～2024 年 3 月)

月日	4/21	4/27	5/9	5/25	6/9	6/20	7/17	7/31	8/14	8/31	9/12	9/22	10/12	10/30	11/24	11/29	12/23	12/30	1/21	1/30	2/14	2/23	3/6	3/8	合計
クロガモ	34	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	4	0	3	0	0	19	20	0	22	10	117

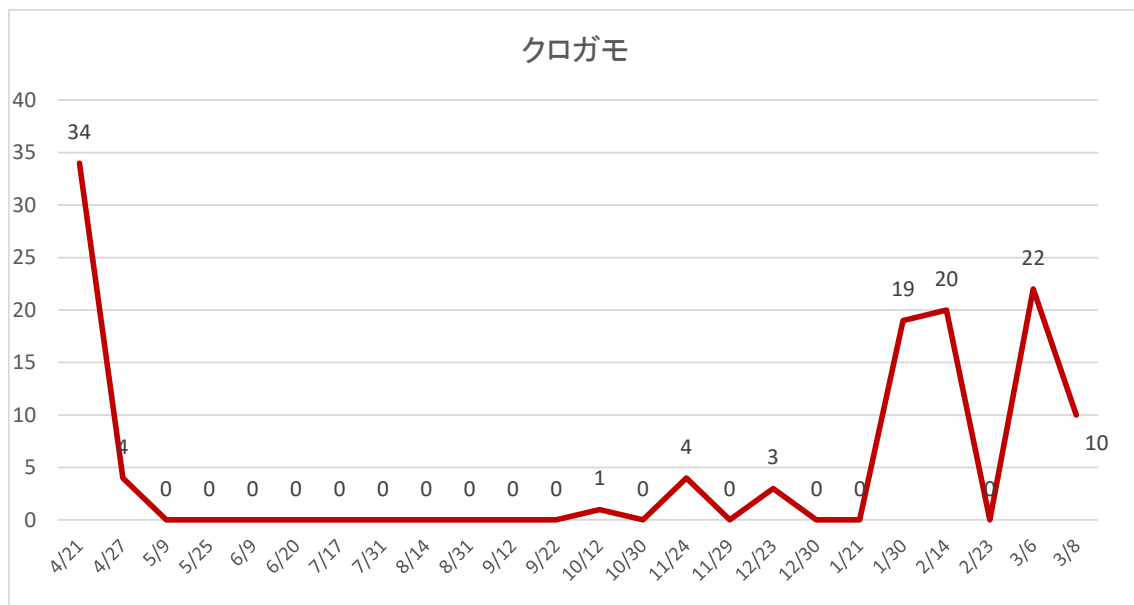


図-28) 2023 年クロガモの調査日別個体数の推移 (2023 年 4 月～2024 年 3 月)

カムチャツカ以北で繁殖し日本には冬鳥として飛来する。主に冬期間に観察された。調査全体で 2022 年は 287 羽で 2023 年は 117 羽であった。最高羽数も 2022 年は 3 月 7 日の 99 羽で 2023 年は 3 月 6 日の 22 羽であり減少していた。



図-29) クロガモ

・シノリガモ

表-24) 2023 年シノリガモの調査日別個体数の推移 (2023 年 4 月～2024 年 3 月)

月日	4/21	4/27	5/9	5/25	6/9	6/20	7/17	7/31	8/14	8/31	9/12	9/22	10/12	10/30	11/24	11/29	12/23	12/30	1/21	1/30	2/14	2/23	3/6	3/8	合計
シノリガモ	135	90	8	6	0	0	0	0	1	3	25	17	23	33	92	91	192	219	233	116	198	515	506	1108	3611

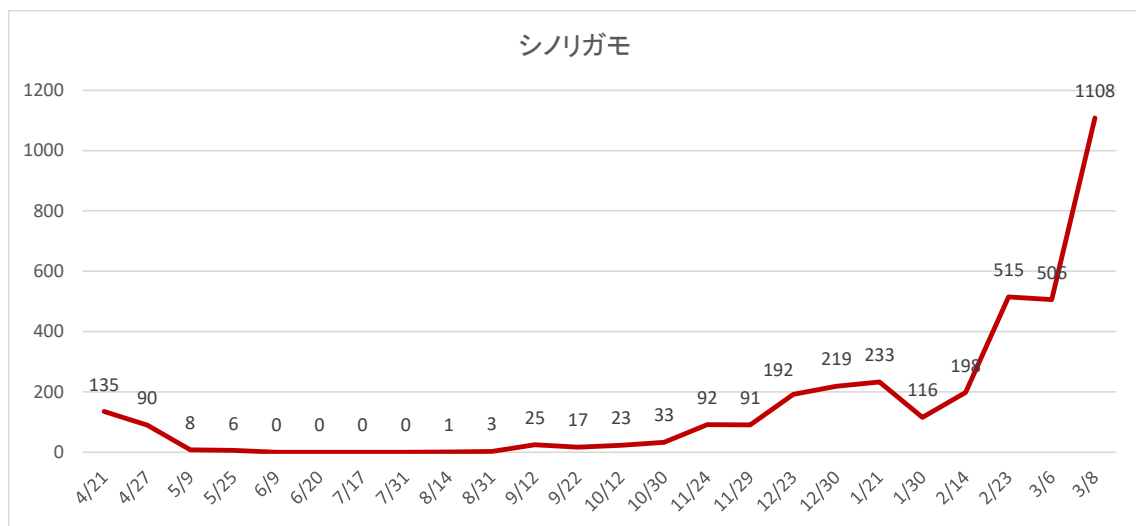


図-30) 2023 年シノリガモの調査日別個体数の推移グラフ (2023 年 4 月～2024 年 3 月)

東北以北で繁殖する個体は、環境省レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類に指定されている。繁殖は森林の溪谷で行い、繁殖期以外は海域で生息するという特異な生態を持っている。知床半島においても繁殖が確認されている。調査全体で 2022 年は 2115 羽で 2023 年は 3611 羽であった。最高羽数も 2022 年は 3 月 4 日の 356 羽で 2023 年は 3 月 8 日の 1108 羽であった。比較的どの地点でも観察されていたが、最高羽数が観察された 3 月 8 日は、沖合に流氷があり、沿岸には薄氷が張っている海域が多く所々に開水面があり、そこにシノリガモが集結していた。知床半島でも少数が繁殖していると考えられることから、知床の森と川と海をつなぐ生き物として今後の知床の環境保護のシンボルともなりうる種である。



図-31) シノリガモ

・ウミアイサ

表-25) 2023 年ウミアイサの調査日別個体数の推移 (2023 年 4 月～2024 年 3 月)

月日	4/21	4/27	5/9	5/25	6/9	6/20	7/17	7/31	8/14	8/31	9/12	9/22	10/12	10/30	11/24	11/29	12/23	12/30	1/21	1/30	2/14	2/23	3/6	3/8	合計
ウミアイサ	100	110	79	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13	181	39	13	0	29	4	25	8	39	29	670

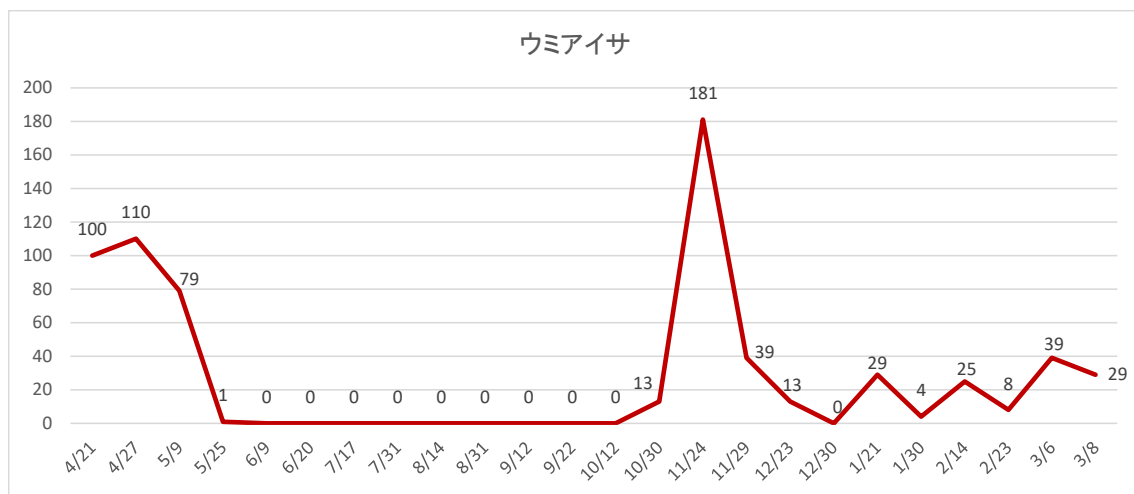


図-32) 2023 年ウミアイサの調査日別個体数の推移グラフ (2023 年 4 月～2024 年 3 月)

ロシア沿海地域からサハリンそしてカムチャツカ以北で繁殖する。10 月以降から冬鳥として飛来する。魚食性のカモである。沿岸にすることが多く港内に入ることも多い。

最高個体数は、11 月 24 日の 181 羽で、礼文町の沖で 125 羽が確認された。



図-33) ウミアイサ

・カワアイサ

表-26) 2023 年カワアイサの調査日別個体数の推移 (2023 年 4 月～2024 年 3 月)

月日	4/21	4/27	5/9	5/25	6/9	6/20	7/17	7/31	8/14	8/31	9/12	9/22	10/12	10/30	11/24	11/29	12/23	12/30	1/21	1/30	2/14	2/23	3/6	3/8	合計
カワアイサ	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	2	47	41	31	8	6	3	4	0	156

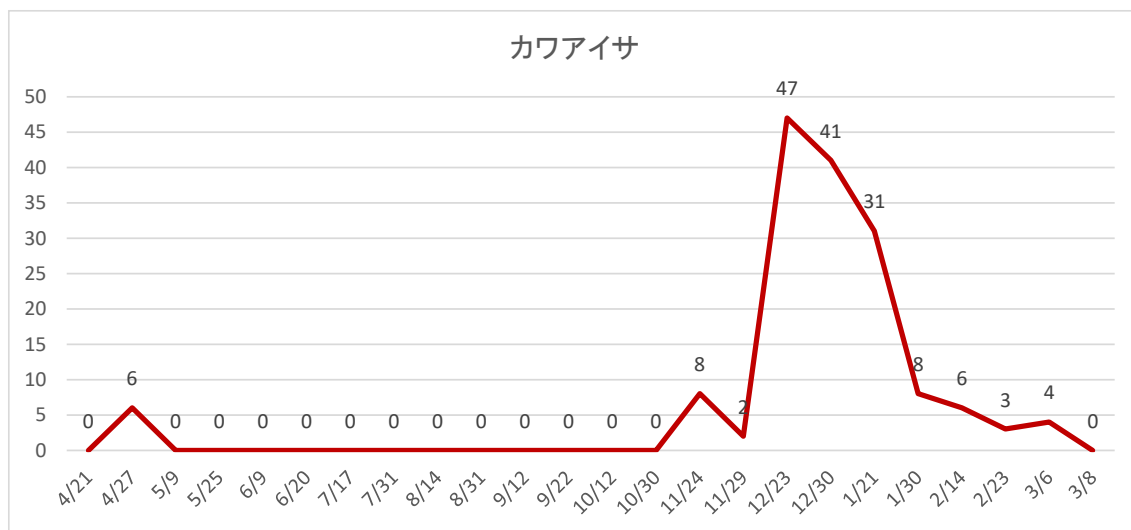


図-34) 2023 年カワアイサの調査日別個体数の推移グラフ (2023 年 4 月～2024 年 3 月)

この種は、知床半島で繁殖する。最高羽数は流水期の 12 月 23 日に礼文町の沿岸で 47 羽が確認された。ウミアイサと同じく魚食性のカモである。カワアイサという名前があるが川の河口付近の海岸でも多く見られる。森林の樹洞や土の中の穴で営巣することからシノリガモと同じく森川海を繋ぐ鳥である。



図-35) カワアイサ

・ユリカモメ

表-27) 2023 年ユリカモメの調査日別個体数の推移 (2023 年 4 月～2024 年 3 月)

月日	4/21	4/27	5/9	5/25	6/9	6/20	7/17	7/31	8/14	8/31	9/12	9/22	10/12	10/30	11/24	11/29	12/23	12/30	1/21	1/30	2/14	2/23	3/6	3/8	合計
ユリカモメ	262	1363	473	108	0	0	0	0	0	0	0	1	70	221	445	8	22	2	0	4	14	1	0	0	2994

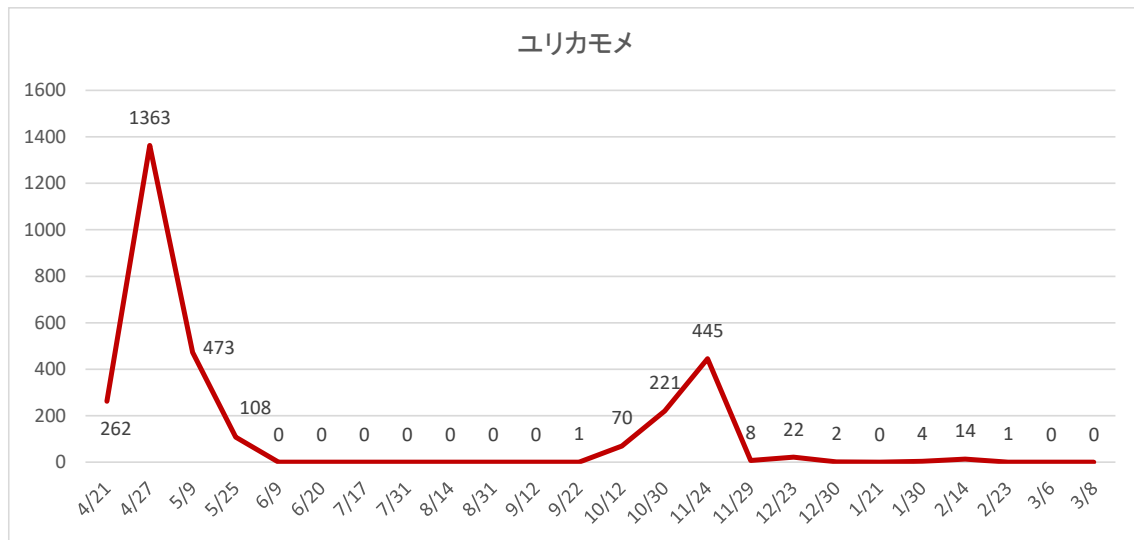


図-36) 2023 年ユリカモメの調査日別個体数の推移グラフ (2023 年 4 月～2024 年 3 月)

春と秋の渡りの時期に多く、冬期間は越冬するの個体が少数観察された。4 月 27 日に 1363 羽が観察された。春に通過する個体は、顔が黒くなった繁殖羽の個体が多かった。



図-37) ユリカモメ (夏羽)

・オオセグロカモメ

表-28) 2023 年オオセグロカモメの調査日別個体数の推移 (2023 年 4 月～2024 年 3 月)

月日	4/21	4/27	5/9	5/25	6/9	6/20	7/17	7/31	8/14	8/31	9/12	9/22	10/12	10/30	11/24	11/29	12/23	12/30	1/21	1/30	2/14	2/23	3/6	3/8	合計
オオセグロカモメ	1465	1289	1478	1466	1073	1013	874	922	536	786	1137	922	951	1074	1037	403	664	1124	319	500	254	548	366	523	20724

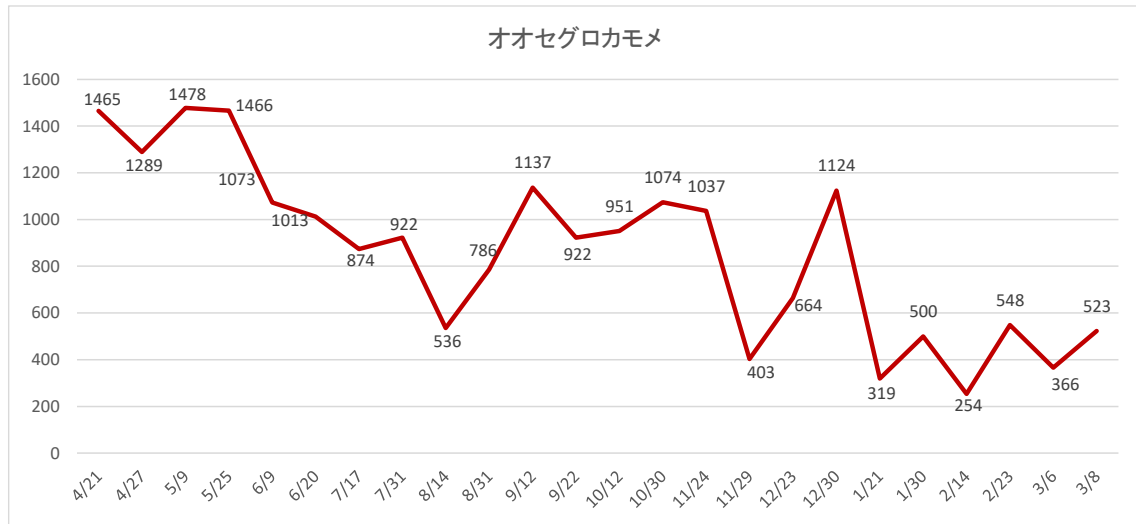


図-38) 2023 年オオセグロカモメの調査日別個体数の推移グラフ (2023 年 4 月～2024 年 3 月)

この鳥は知床半島で繁殖し、知床半島で観察できる海鳥のなかで最も個体数が多い。年間を通して観察することができる。水産廃棄物や漁船からこぼれた魚を食べることも多いため、漁港周辺に生息することが多い。繁殖は、建物の屋根や防波堤などの人工物や岩礁や崖の岩棚など多くの環境を利用する。

北海道の各地で繁殖数を減らしていることから、2017 年より北海道指定の絶滅危惧Ⅱ類に指定されている。



図-39) オオセグロカモメ

・ウミネコ

表-29) 2023 年ウミネコの調査日別個体数の推移 (2023 年 4 月～2024 年 3 月)

月日	4/21	4/27	5/9	5/25	6/9	6/20	7/17	7/31	8/14	8/31	9/12	9/22	10/12	10/30	11/24	11/29	12/23	12/30	1/21	1/30	2/14	2/23	3/6	3/8	合計
ウミネコ	35	10	23	4	22	1	92	232	509	203	680	766	560	751	766	12	0	0	0	54	0	0	0	0	4720

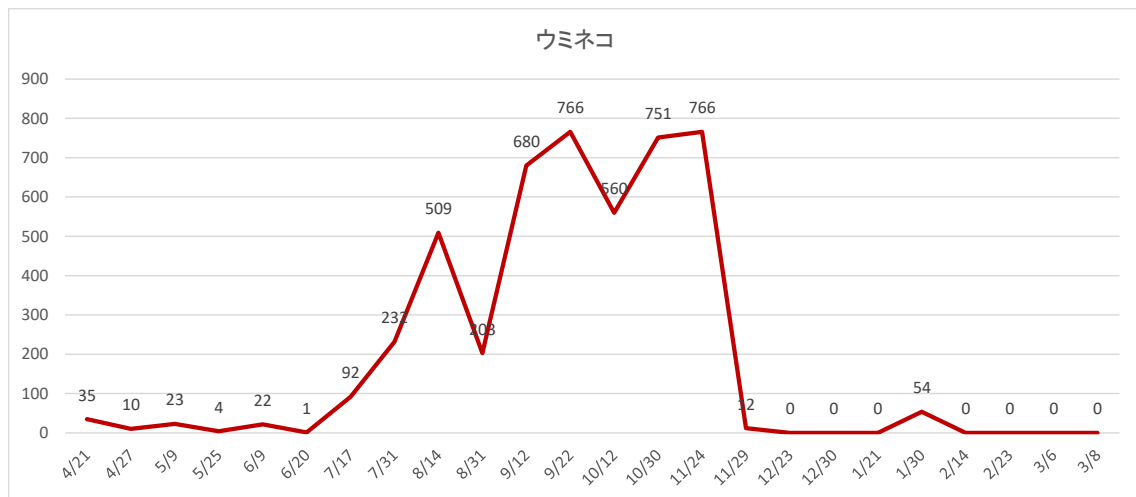


図-40) 2023 年ウミネコの調査日別個体数の推移グラフ (2023 年 4 月～2024 年 3 月)

北海道の各地で繁殖数を減らしていることから、2017 年より北海道指定の絶滅危惧Ⅱ類に指定されている。繁殖期が終了した時期から個体数が増え始め 9 月 22 日 766 羽・11 月 24 日にも 766 羽を確認した。冬期間は 1 月 30 日の 54 羽を除いて確認されなかった。



図-41) ウミネコ

・ミツユビカモメ

表-30) 2023 年ミツユビカモメの調査日別個体数の推移 (2023 年 4 月～2024 年 3 月)

月日	4/21	4/27	5/9	5/25	6/9	6/20	7/17	7/31	8/14	8/31	9/12	9/22	10/12	10/30	11/24	11/29	12/23	12/30	1/21	1/30	2/14	2/23	3/6	3/8	合計
ミツユビカモメ	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	3	1	151	63	24	0	0	0	0	0	0	0	0	244

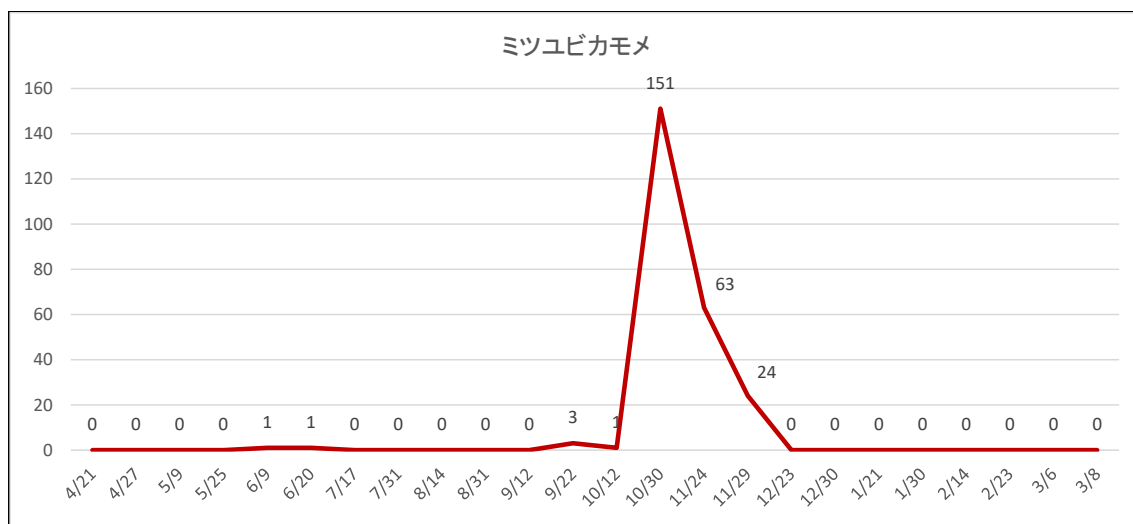


図-42) 2023 年ミツユビカモメの調査日別個体数の推移グラフ (2023 年 4 月～2024 年 3 月)

北千島以北で繁殖する。秋の渡りの時期の 10 月 30 日に最高個体数 151 羽が観察された。小型のカモメであるが魚食性が強く、飛来数の増減は、餌資源である小魚の資源量に影響を受けていると考えられる。



図-43) ミツユビカモメ

・ワシカモメ

表-31) 2023 年ワシカモメの調査日別個体数の推移 (2023 年 4 月～2024 年 3 月)

月日	4/21	4/27	5/9	5/25	6/9	6/20	7/17	7/31	8/14	8/31	9/12	9/22	10/12	10/30	11/24	11/29	12/23	12/30	1/21	1/30	2/14	2/23	3/6	3/8	合計
ワシカモメ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	5	3	1	1	2	2	3	4	1	1	26

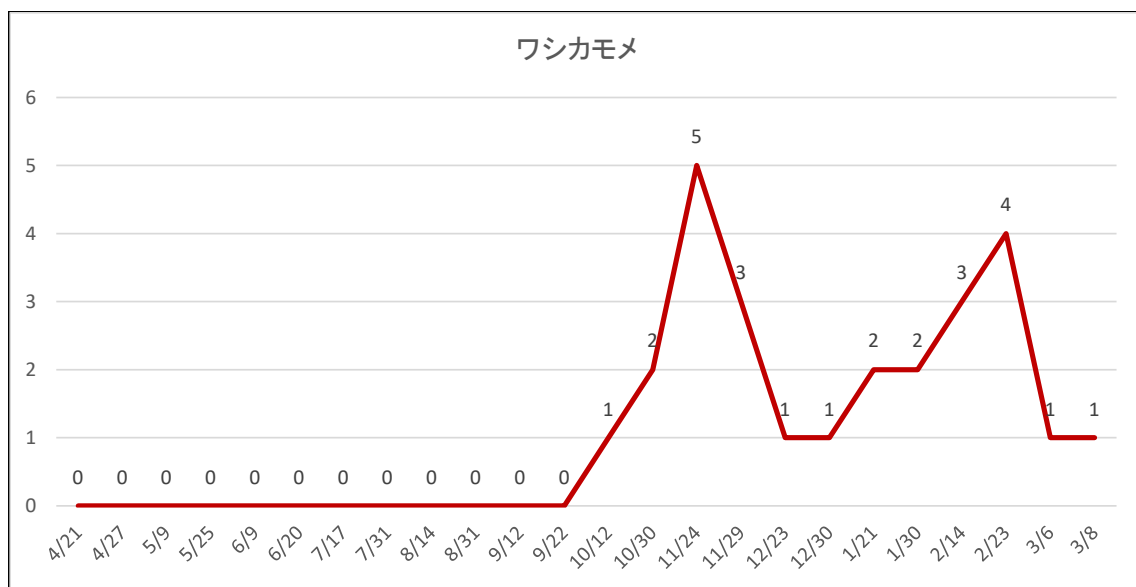


図-44) 2023 年ワシカモメの調査日別個体数の推移 (2023 年 4 月～2024 年 4 月)

アリューシャン列島から北アメリカのアラスカ北部で繁殖し、知床半島へは主に冬鳥として飛来する。秋期から冬期の期間に少数が観察された。漁港周辺でオオセグロカモメなどの群れの中に滞在する個体が多かった。



図-45) ワシカモメ

・シロカモメ

表-32) 2023 年シロカモメの調査日別個体数の推移 (2023 年 4 月～2024 年 3 月)

月日	4/21	4/27	5/9	5/25	6/9	6/20	7/17	7/31	8/14	8/31	9/12	9/22	10/12	10/30	11/24	11/29	12/23	12/30	1/21	1/30	2/14	2/23	3/6	3/8	合計
シロカモメ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	5	0	0	19	5	17	0	0	0	0	51

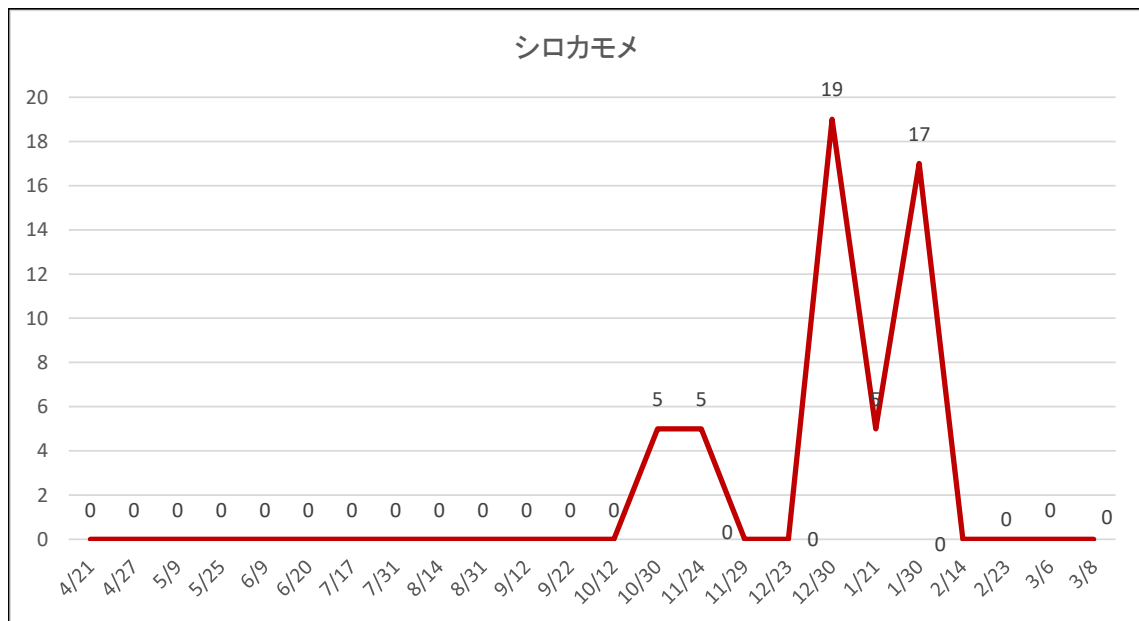


図-46) 2023 年シロカモメの調査日別個体数の推移 (2023 年 4 月～2024 年 3 月)

北極圏で繁殖する。主に冬鳥として飛来する。最高羽数は 12 月 30 日 19 羽であった。漁港周辺で見られることが多かった。

・カモメ

表-33) 2023 年カモメの調査日別個体数の推移 (2023 年 4 月～2024 年 3 月)

月日	4/21	4/27	5/9	5/25	6/9	6/20	7/17	7/31	8/14	8/31	9/12	9/22	10/12	10/30	11/24	11/29	12/23	12/30	1/21	1/30	2/14	2/23	3/6	3/8	合計
カモメ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	21	7	798	2	0	0	29	0	0	0	11	869

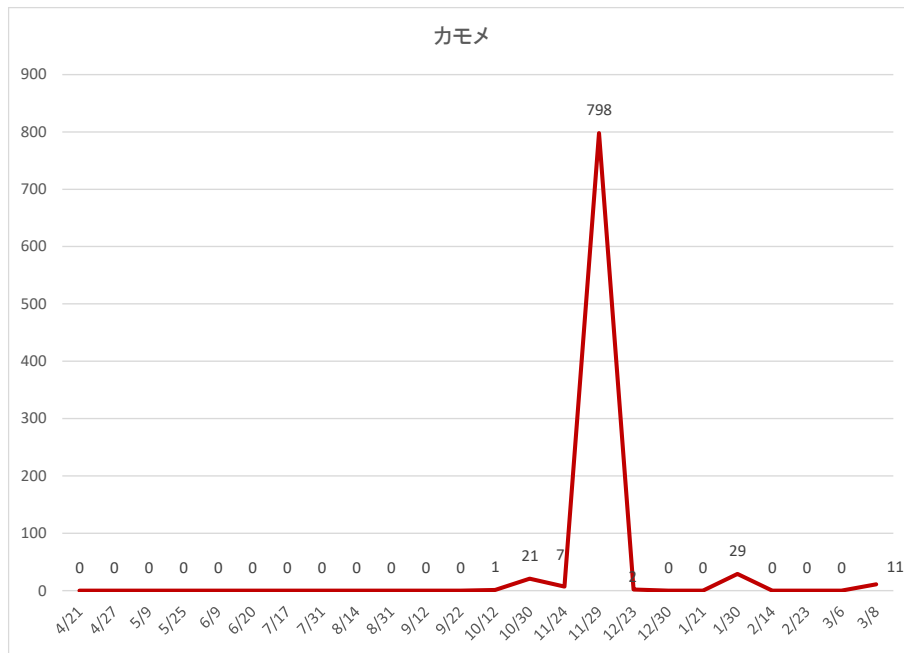


図-47) 2023 年カモメの調査日別個体数の推移 (2023 年 4 月～2024 年 3 月)

北千島・サハリンより北で繁殖する。群れで海面で何かを啄む姿が観察されることが多く、海面でプランクトンなどを食べているものと考えられる。最高羽数は 11 月 29 日の 798 羽で峯浜の沖で 486 羽を確認した。この日は、北風の出し風が強くカモメ類がそれを避けるように沿岸に何万羽も集まっていたが、視界が悪く種の識別にまで至らなかったが、カモメも多く混ざっていたと思われる。



図-48) カモメ

・ウトウ

表-34) 2023 年ウトウの調査日別個体数の推移 (2023 年 4 月～2024 年 3 月)

月日	4/21	4/27	5/9	5/25	6/9	6/20	7/17	7/31	8/14	8/31	9/12	9/22	10/12	10/30	11/24	11/29	12/23	12/30	1/21	1/30	2/14	2/23	3/6	3/8	合計
ウトウ	0	0	0	0	87	4	566	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	666

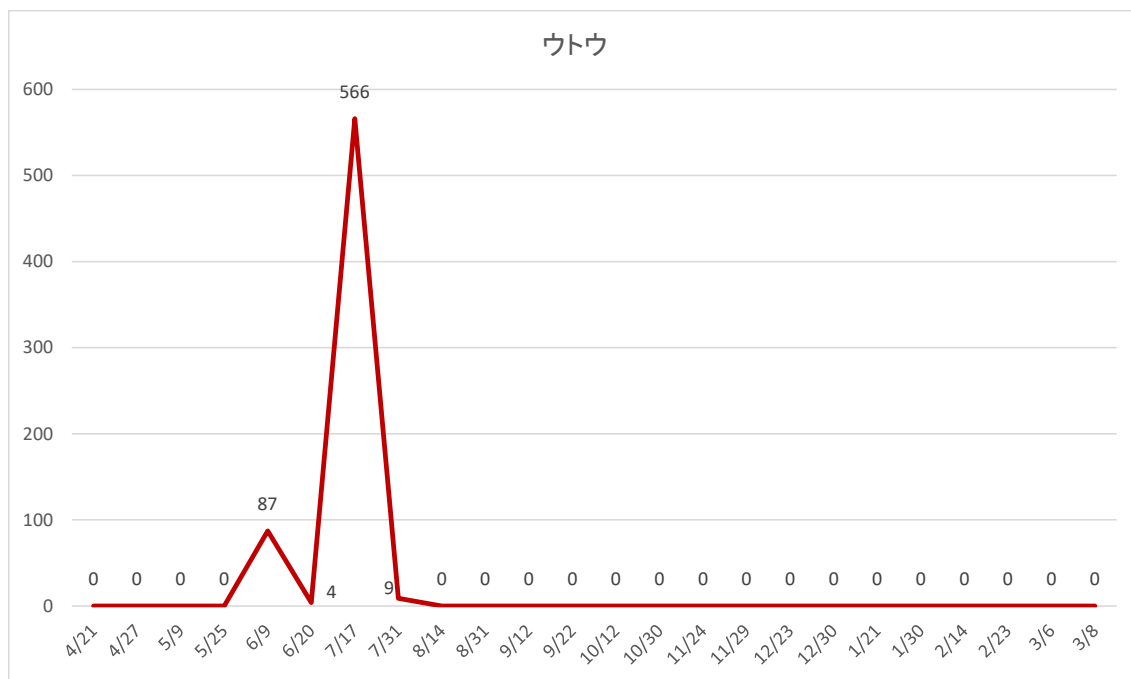


図-49) 2023 年ウトウの調査日別個体数の推移 (2023 年 4 月～2024 年 3 月)

知床半島では繁殖の記録はない。繁殖期に飛来する個体は近隣の国後島や択捉島の島嶼部で繁殖するものだと考えられる。最高羽数は繁殖期の 7 月 17 日の 566 羽であった。繁殖期の育雛期に多く出現することから、この近海に餌資源である魚類の生息状況に個体数が大きく影響を与えていると考えられる



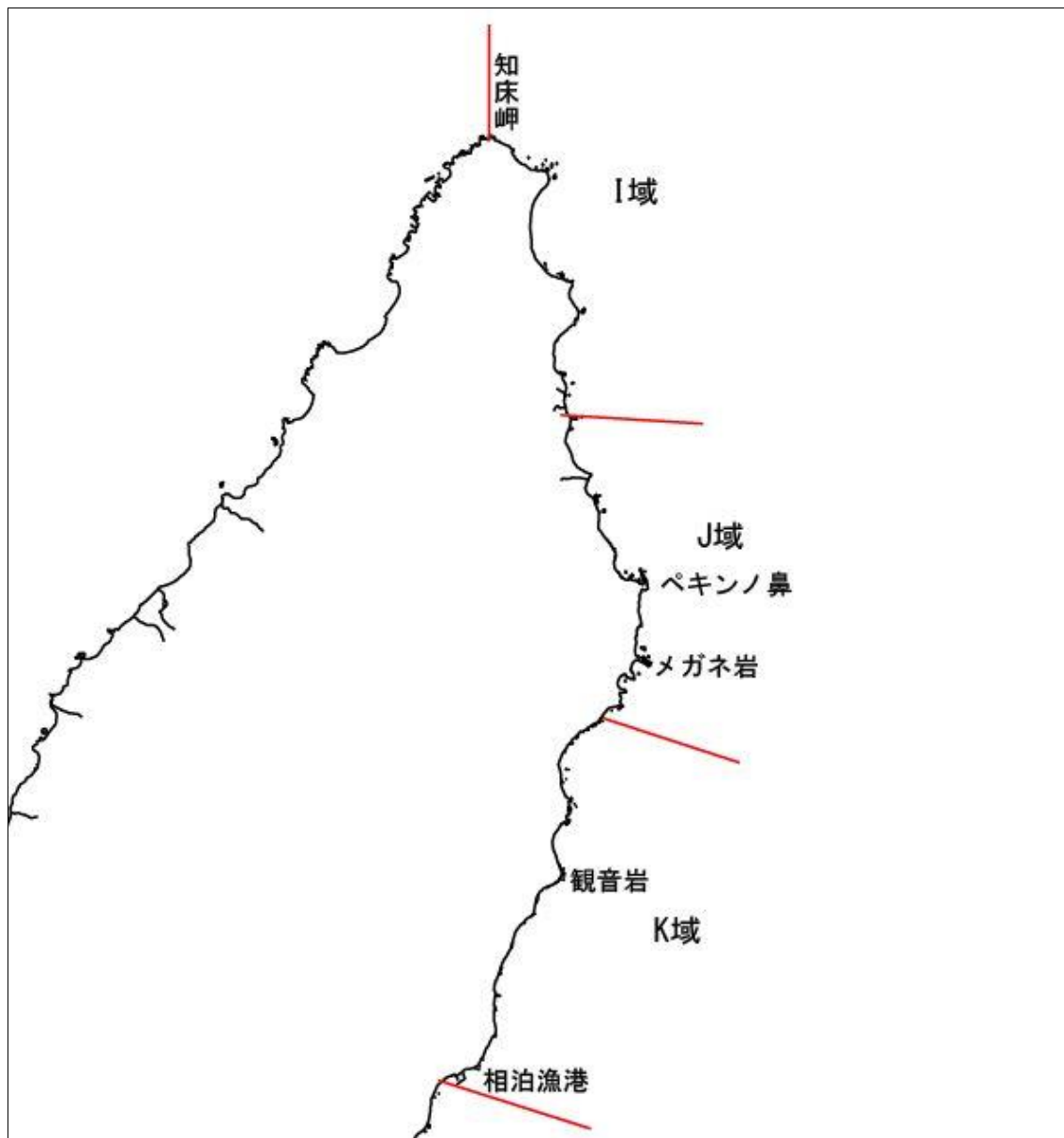
図-50) ウトウ

2-1-2. 海上からの海鳥調査

<調査範囲>

相泊～知床岬の沿岸およびその海域における、船舶を用いた海上調査。

相泊～知床岬の沿岸およびその海域については、K～Iの3区間に分け、さらに岸側と沖側に分けて調査用紙を作成し海上調査時に用いた。



図ー1) 海上調査位置図と区域割図

表-1) 海上からの調査時の気象条件

	日付	天候	波高	海水温 (平年比)	気温	風向	風速
1	6月21日	晴	0.5m	12℃ (+1℃)	17.4℃	南東	3m
2	7月12日	くもり	1m	15℃ (+4℃)	19.8℃	南東	1.0m

＜調査方法＞

相泊～知床岬の沿岸およびその海域については、作成した調査用紙をもとに調査を行った。できるだけ波の状態の良い日を選んで小型漁船にて相泊港発着で、基本的にK岸側、J岸側、I岸側を往路とし、知床岬にて海上約3km～4kmほど沖に出し、I沖側、J沖側、K沖側を復路として調査を行った。

海鳥がいる場合は徐行し海鳥の行動を妨害しないよう注意を払って航行した。各調査日および調査時の条件については、海上からの調査時の気象条件（表-1）に示した。

調査は、船上から12倍の防振双眼鏡を用いて海上を観察し、観察できる範囲に出現したすべての海鳥の個体数を記録した。



図-2) 知床岬の沿岸で採餌のために群れるハシボソミズナギドリ

<調査結果および考察>

1) 各区域と調査日の結果考察

観察日における鳥種と個体数を観察区域ごとに表としてまとめた。

・2023年6月21日の沿岸海鳥調査

表-2) 2023年6月21日海上センサスで観察された海鳥の種類と個体数

	種別\区域	往 路			復 路			合計
		相泊～タケノコ岩 (K域)岸側	タケノコ岩～滝ノ下 (J域)岸側	滝ノ下～知床岬 (I域)岸側	滝ノ下～知床岬 (I域)沖側	タケノコ岩～滝ノ下 (J域)沖側	相泊～タケノコ岩 (K域)沖側	
2	クロアシアホウドリ					1		1
3	フルマカモメ			0	12	35	38	85
4	ハシボソミズナギドリ			2000	664	6	32	2702
5	ヒメウ		1	8	4			13
6	ウミウ	5	51	32				88
9	ミツユビカモメ	0	1	240	121		1	363
10	ウミネコ	0	136	33				169
12	オオセグロカモメ	45	377	234			8	664
16	ウトウ				10	5	15	30
	合計	50	566	2547	811	47	94	4115
	種類	4	5	7	5	4	5	9

海鳥の抱卵期後期で最も営巣分布調査に適した時期であったため、海上センサスに並行して行った。

2021年に羅臼側で初めてウミネコの営巣を確認したが、2022年に眼鏡岩周辺で5巣を確認し、2023年は眼鏡岩周辺で31巣を確認した。しかし、その後の7月12日の調査では、雛の確認は出来なく繁殖は成功しなかったと考えられる。

知床岬周辺の沿岸では、ハシボソミズナギドリを中心にミツユビカモメやオオセグロカモメが混じった大群が岩礁地帯の海上や海中で採餌を行っていた。何を採餌しているかは確認できなかった。ハシボソミズナギドリが岸に近い沿岸で採餌することは珍しい。

・2023年7月12日の沿岸海鳥調査

表-3) 2023年7月12日海上センサスで観察された海鳥の種類と個体数

	種別\区域	往 路			復 路			合計
		相泊～タケノコ岩 (K域)岸側	タケノコ岩～滝ノ下 (J域)岸側	滝ノ下～知床岬 (I域)岸側	滝ノ下～知床岬 (I域)沖側	タケノコ岩～滝ノ下 (J域)沖側	相泊～タケノコ岩 (K域)沖側	
1	ハシボソミズナギドリ				1			1
2	ヒメウ		2	9			1	12
3	ウミウ	14	106	108	1		2	231
4	ウミネコ	40	147	33	1	42	35	298
5	オオセグロカモメ	140	253	225	10	18	53	699
6	ウミガラス						1	1
7	ウトウ			3		1	189	193
	合計	194	508	378	13	61	281	1435
	種類	3	4	5	4	3	6	7



図-3) 7月12日のウトウの群れ

7月12日の調査では、6月21日の調査と比較してハシボソミズナギドリの大群は見られなかった。岩礁や斜面で営巣するオオセグロカモメとウミウは、この時点では順調に抱卵と育雛をしていた。ウミネコの営巣は放棄されていた。その後、オオセグロカモメとウミウが営巣していた岩礁にヒグマが侵入して営巣を放棄させたようだった。



図-4) 眼鏡岩のウミウの営巣地

2-1-3. まとめ

羅臼沖の根室海峡は、知床半島と国後島に挟まれた幅 25～45km の海域である。その水深は先端部で 2000m を超える一方、半島の基部の海峡は 20m と浅く、その中央部分は湾のように水深が急激に変化している。その海底地形は多様で、様々な海洋生物の生息地となっている。また冬期には流氷が到来し、その影響で豊富なプランクトンがもたらされる。こうしたプランクトンを求め、多くの魚が回遊し、海鳥やクジラ類の貴重な餌資源となっている。

こうした海流や地形の特色から、豊富な海洋資源を有する羅臼海域は、世界の海洋の広範囲を生息域にしているミズナギドリなど多くのグローバルに移動する渡り鳥の中継地となっている。

陸上からの調査では、本年で 8 年目を迎えた。調査地点・調査時期・調査回数を固定することにより定量的な調査ができており長期モニタリングとしての役割を果たしつつある。

近年、地球温暖化による海水温の変化による生物に及ぼす影響が懸念されている。その中でも、海鳥は唯一目に触れやすい海洋生物である。海鳥の生息を調査し把握して行くモニタリング調査は長期にわたり海の健康状態を知る上で不可欠であると考えられる。

今後の課題としては、他の海域で海鳥の生息状況や知床海域の他の生物の生息状況を併せて解析することも必要であると思われる。

3. ケイマフリ

3-1. 海上分布調査及び個体数調査

<調査方法>

2023年6月12日から8月10日の間に計11回の調査を行った。調査日の設定は波高が1m以内という条件の下実施した。調査時間は、午前10時から11時以降に開始し、各回2時間程度とした（調査海域は東側に崖があるため、早朝は沿岸部が日陰になり目視調査が困難である）。ただし、波高や天候により調査時間を変更することもあった。調査範囲は、ケイマフリが海上で生息するウトロ港からエエイシレド岬までとし、岸から約600m以内を調査した。調査航路は、ウトロ港からプユニ岬間は直線的に航行し、プユニ岬からエエイシレド岬間は往路約50m～100m沖を、復路は約400m沖を航行してカウントした。調査には、小型船舶を利用し、約2～4ノットの速度で航行し左右両舷前方約200mの海上および陸上で発見した個体の数・位置などの情報を記録した。なお、海岸線を基にして約100mメッシュで海域を区切り、数と位置を記録した。観察地点の位置情報は船舶装備のGPSで決定した。

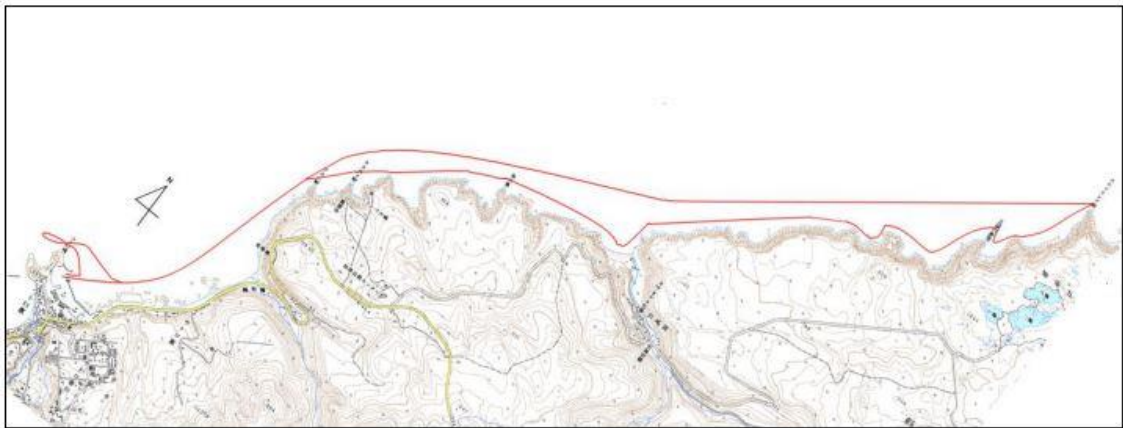


図-1) ケイマフリ個体数モニタリングの航路（国土地理院2万5千の1地形図を加工）

<調査結果>

表-1) ケイマフリ海上センサス結果（気温はアメダスのウトロ観測地点の正午の記録、海面水温と平均値は気象庁の海洋の健康診断の図より引用）

No	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
調査日	6/12	6/22	6/23	6/28	7/3	7/10	7/20	7/21	7/23	7/27	8/10
天候	晴	晴	晴	曇	霧	晴	曇	晴	晴	晴	曇
気温(°C)	23	26.8	21.2	27.4	16.9	24.4	21.2	23.8	26	30.2	25
波高(m)	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	1	0.5
海水温(°C)	9	12	12	15	16	17	16	16	18	22	23
平年比(°C)	+1	+2	+2	+2.5	+2.5	+3.5	+2	+2	+2.5	4	4
個体数	184	14	77	135	64	222	157	139	163	30	1

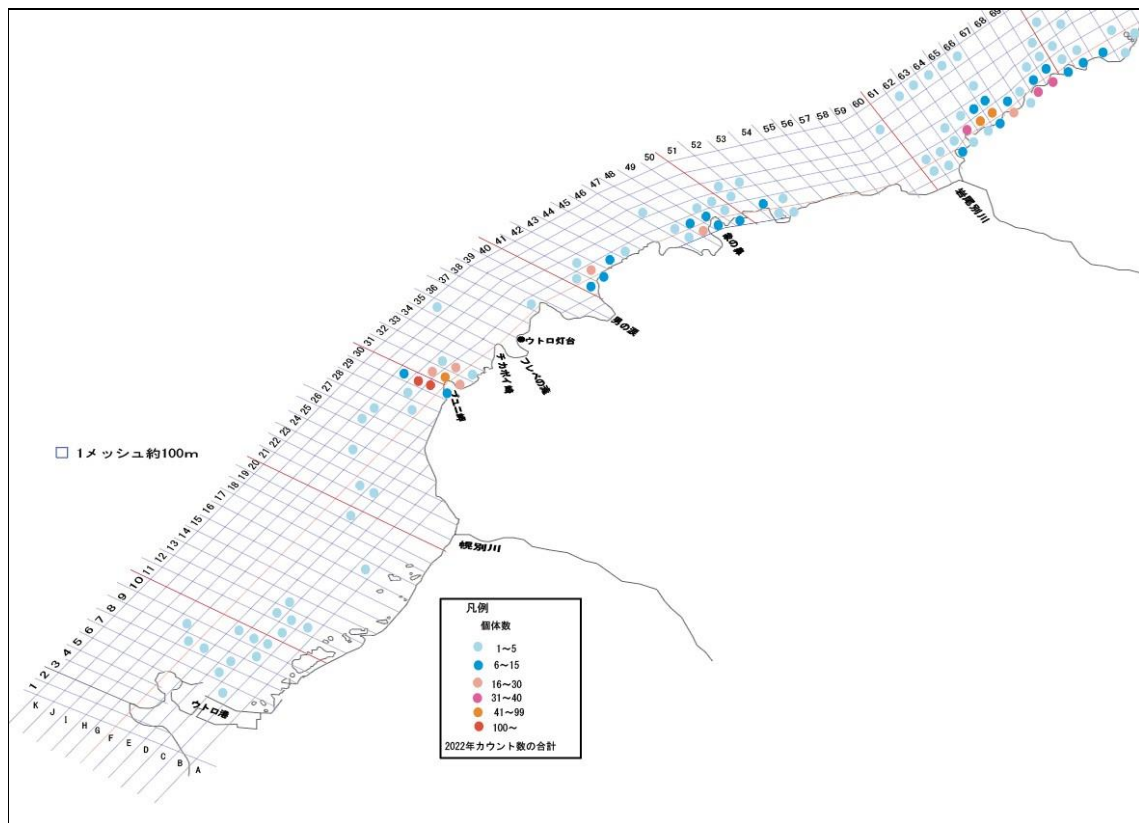


図-2) 2023 年ケイマフリ海上分布（ウトロ港～岩尾別周辺）

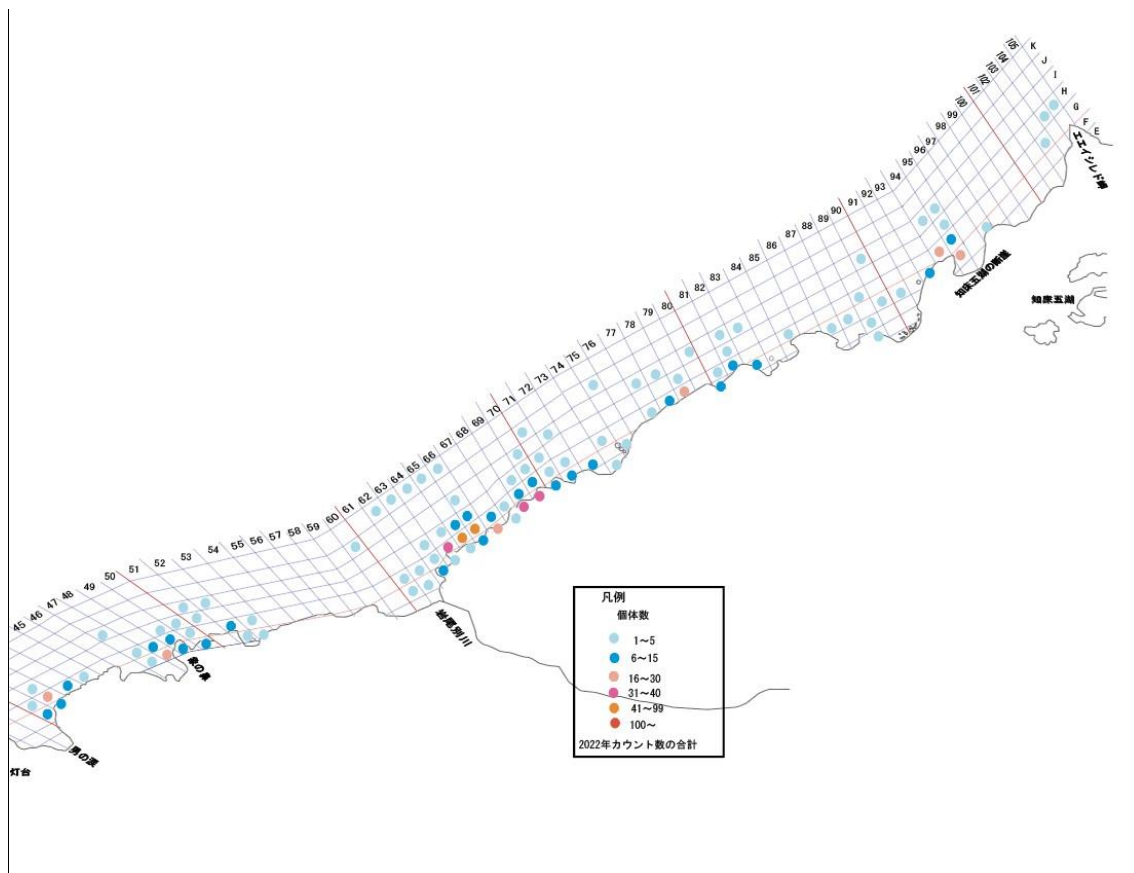


図-3) 2023 年ケイマフリ海上分布 (岩尾別～エエイシレド岬)

2023 年に確認された 1 日の最大個体数は 7 月 10 日の 222 羽であった。2002 年からの調査においては過去最大個体数であった 2022 年の 303 羽から 81 羽減少した。海上分布は最大の営巣地であるプユニ岬沖が最も多く岩尾別台地沖がそれに続いた。営巣地に近い海域に最も密度が高い。この種は、営巣地周辺の海域で待機することが多く、それが関連しているものと考えられる。また、ウトロ漁港周辺に滞在する個体は、この海域は水深が浅く海底が砂地で餌資源のイカナゴの生息に適しているからだと考えられる。

3-2. ケイマフリ繁殖状況調査

<調査方法>

海上センサス調査は巣への出入りを確認した6月22日から7月27日までの間に9回行った。トークシモイからエエイシレド岬までの区間に営巣は確認されなかったため、調査範囲はこれまで営巣が確認されてきたプユニ岬からトークシモイまでとした。小型船舶を利用して海上で嘴に魚を咥えて巣に持ち帰る親鳥を追跡し、断崖の出入りしている場所を営巣中の巣として確定し場所と位置と数を記録した。また、前述の海上センサス調査中に同様の親鳥の行動が観察された場合も営巣地として記録した。また、7月21日と7月30日にプユニ岬沖で2時間程度定点調査を行った。

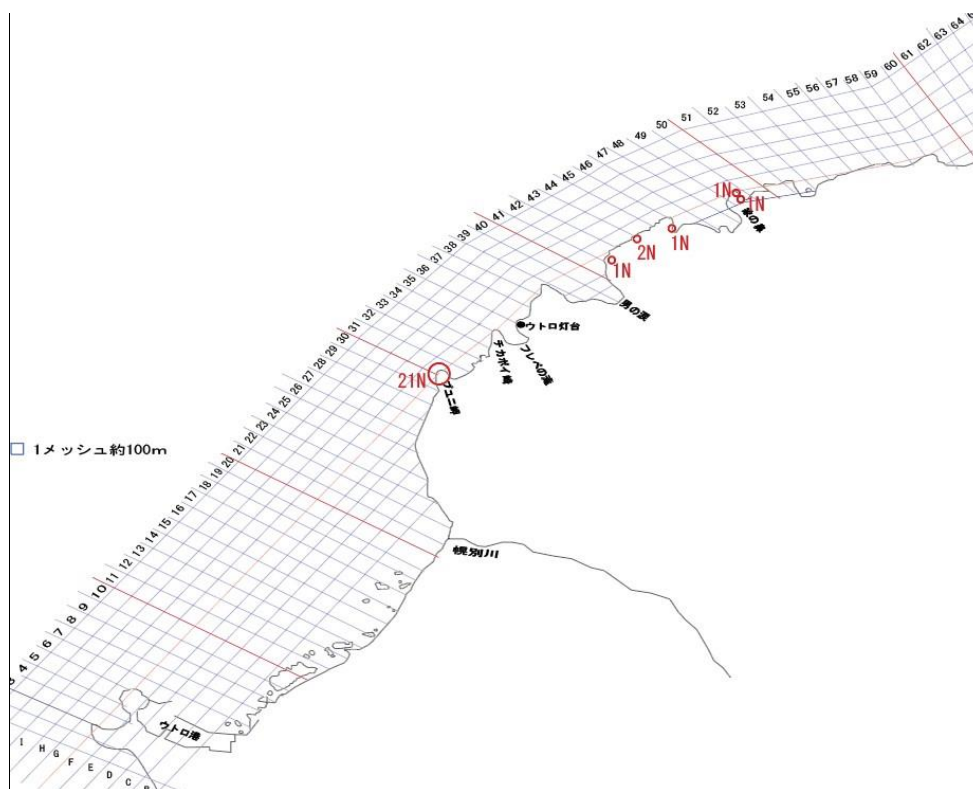


図-4) 2023 年ケイマフリの営巣分布調査（プユニ岬～岩尾別）

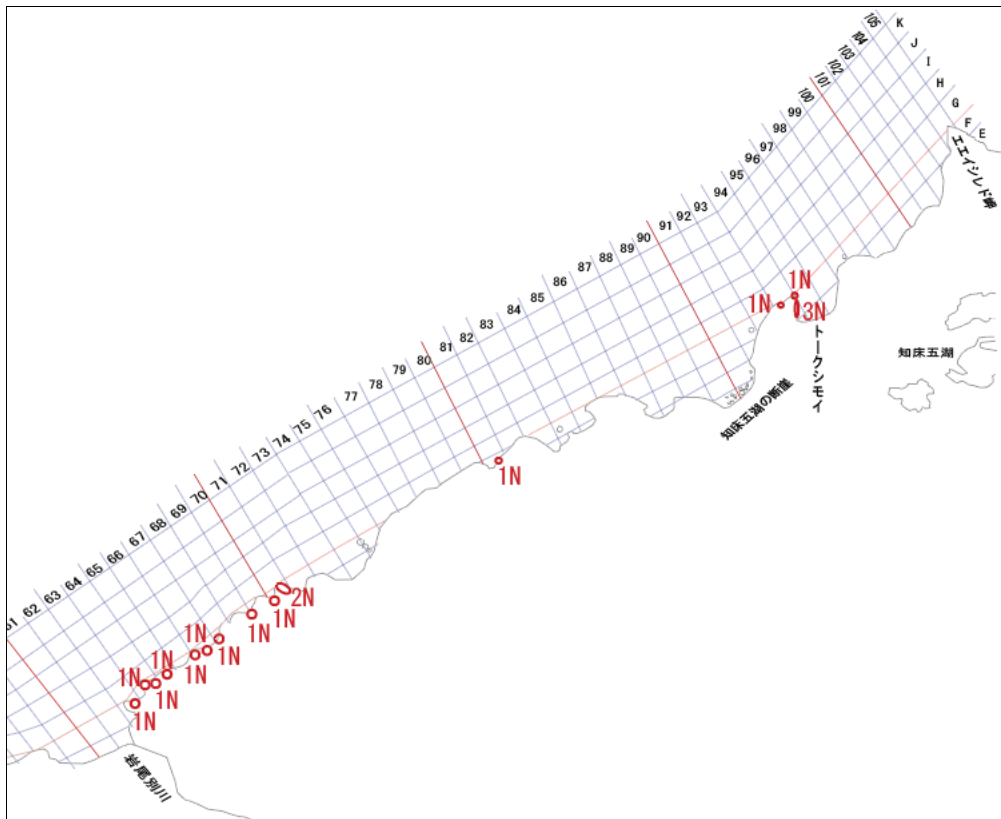


図-5) 2023 年ケイマフリの営巣分布調査 (岩尾別～エエイシレド岬)

表-2) ケイマフリの海域別営巣数の経年変化

地域名/年	2002年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	
プユニ岬～男の涙	10	11	7	25	24	6	25	9	23	21	
男の涙～象の鼻	10	3	0	4	1	1	1	3	6	4	
象の鼻～岩尾別	1	4	5	8	2	0	1	1	0	1	
岩尾別台地	0	12	2	4	7	8	4	6	5	8	
知床五湖の断崖	0	1	0	2	2	4	3	2	9	11	
トークシモイ	3	7	0	3	1	0	1	0	1	1	
Total	24	38	14	46	37	19	35	21	44	46	
地域名/年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
プユニ岬～男の涙	19	25	25	26	18	34	26	10	21	27	21
男の涙～象の鼻	4	4	2	0	4	5	8	3	2	2	4
象の鼻～岩尾別	0	0	1	3	2	0	0	1	1	0	2
岩尾別台地	10	12	7	25	15	3	6	11	12	9	12
知床五湖の断崖	6	5	10	2	6	4	2	1	2	1	0
トークシモイ	0	1	1	1	1	7	6	2	1	2	5
Total	39	47	46	57	46	53	48	28	39	41	44

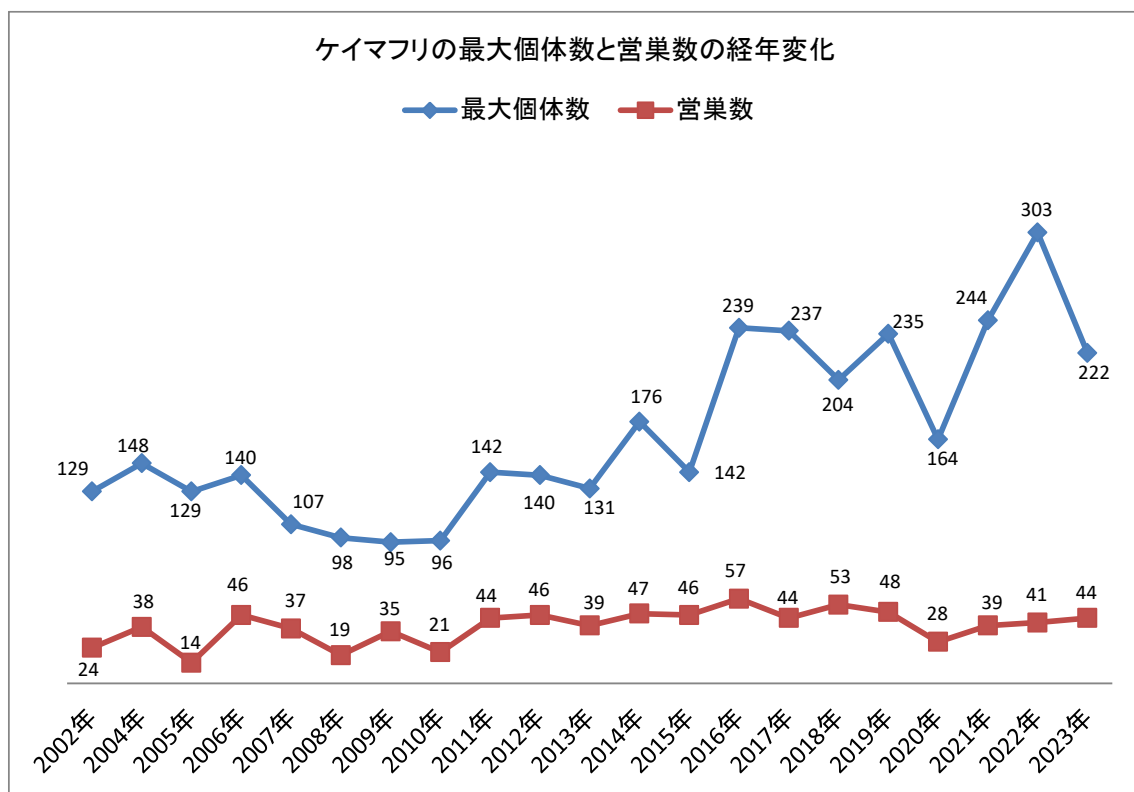


図-6) ケイマフリの最大個体数（/日）と営巣数の経年変化（2002年～2023年）

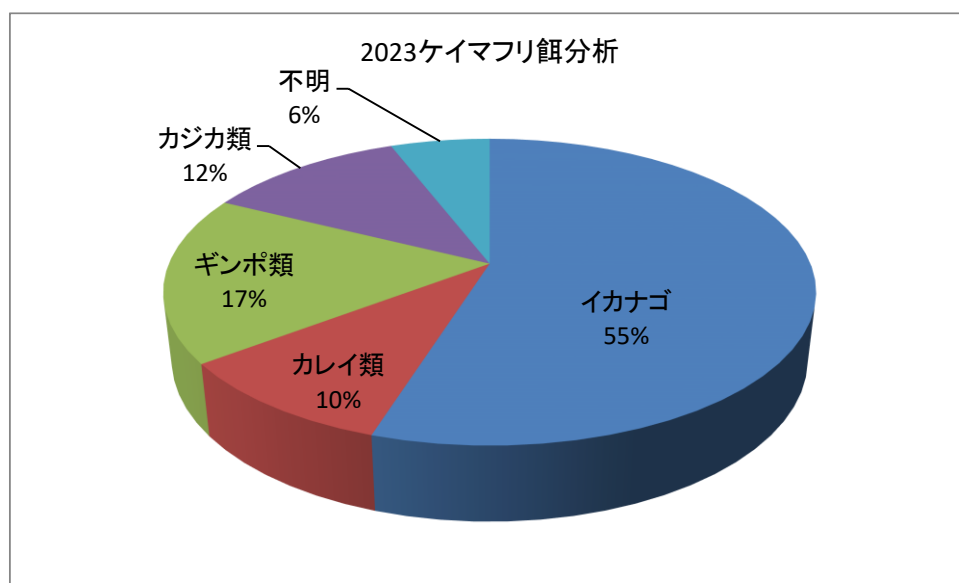
営巣数は、知床半島全域で44巣と昨年の41巣から3巣増加した。営巣地の分布は、プユニ岬21巣・岩尾別台地の崖12巣、トークシモイ周辺は昨年よりも2巣多い5巣を確認でき、プユニ岬の一極集中が昨年と比較して少し軽減された。また、岩尾別台地の崖は複雑でありプユニ岬と比較して距離も長いため、営巣数の全数を確認するのは困難である。そのため、実数よりも多く営巣している可能性もある。

3-3. ケイマフリ餌資源調査

ケイマフリ生息状況調査の調査中に確認した、育雛期に巣内のヒナに持ち帰るために嘴に魚類をくわえている個体を観察し餌資源調査を行った。

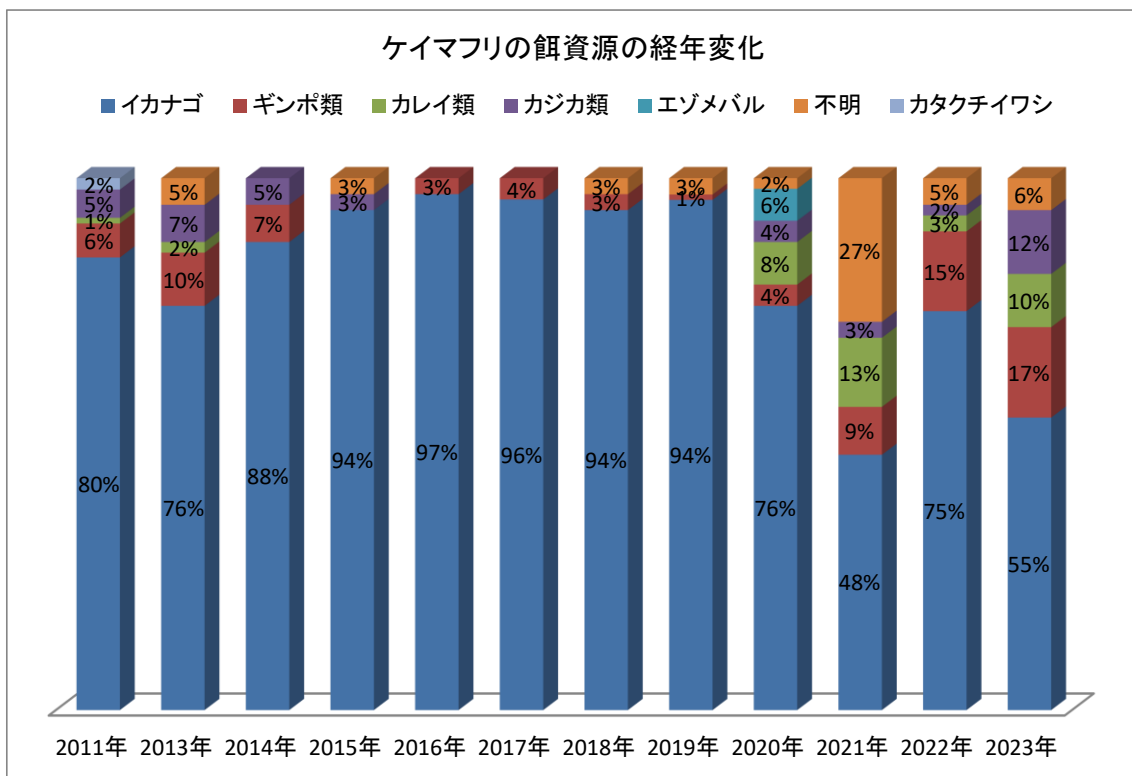
表-3) ケイマフリ餌資源調査結果

No	月日	イカナゴ	カレイ類	ギンポ類	カジカ類	不明	合計
1	6月22日	3					3
2	6月23日	1					1
3	6月28日	3					3
4	7月3日	4					4
5	7月10日	3		1		1	5
6	7月20日	2					2
7	7月21日	4	3	3	2		12
8	7月23日	4		2	1	2	9
9	7月27日	4	2	3	3		12
	合計	28	5	9	6	3	51



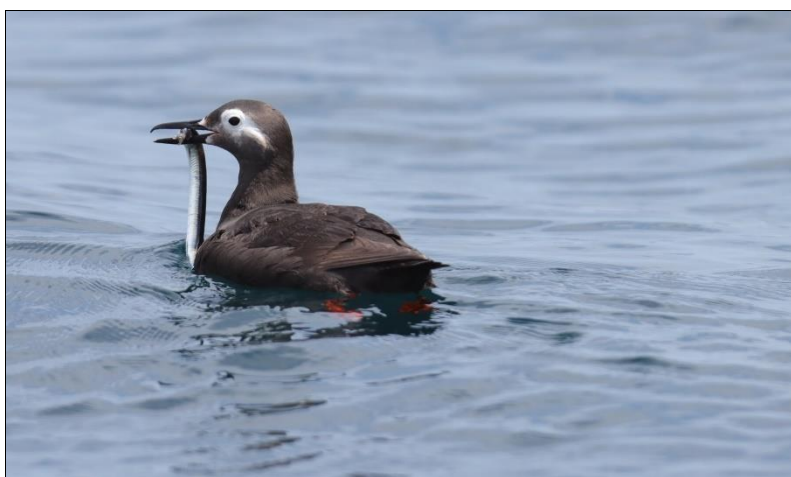
図ー7) 2023 年ケイマフリの餌資源

本年の調査結果は、イカナゴ 55%・ギンポ類 17%・カジカ類 12%・カレイ類 10%・不明 6%であった。



図ー8) ケイマフリの餌資源の経年変化

これまでの主食であるイカナゴの割合が本年は2021年の48%に続く55%と少ない割合だった。また、ギンボとカジカ類の割合がこれまでと比較して17%と12%で最も多かった。



図ー9) イカナゴをくわえるケイマフリ

〈ケイマフリの生息状況についての考察〉

2023 年の個体数は、過去最高であった 2022 年の 303 羽から一転して 222 羽と 81 羽減少した。営巣数は 44 巣を確認した。しかし、ケイマフリは崖の穴や隙間に営巣するために全数を確認するのは困難であるため、単純に比較はできない。

餌資源も主食であるイカナゴの比率が 55%と 2022 年の 75%から減少した。2021 年の 48%に次ぐ少ない割合である。育雛期の 6 月上旬から 7 月下旬は平年よりも高い海水温の日が続き、7 月 25 日には平年よりも 4℃も高い 19℃の海水温であった。

イカナゴは、17℃以上の海水温を避けるため、今後もケイマフリの繁殖期に高い海水温が続き主食であるイカナゴが減少すれば、繁殖成功率の低下などの影響を与える可能性もあり、今後もデータを蓄積し解析することが必要である。

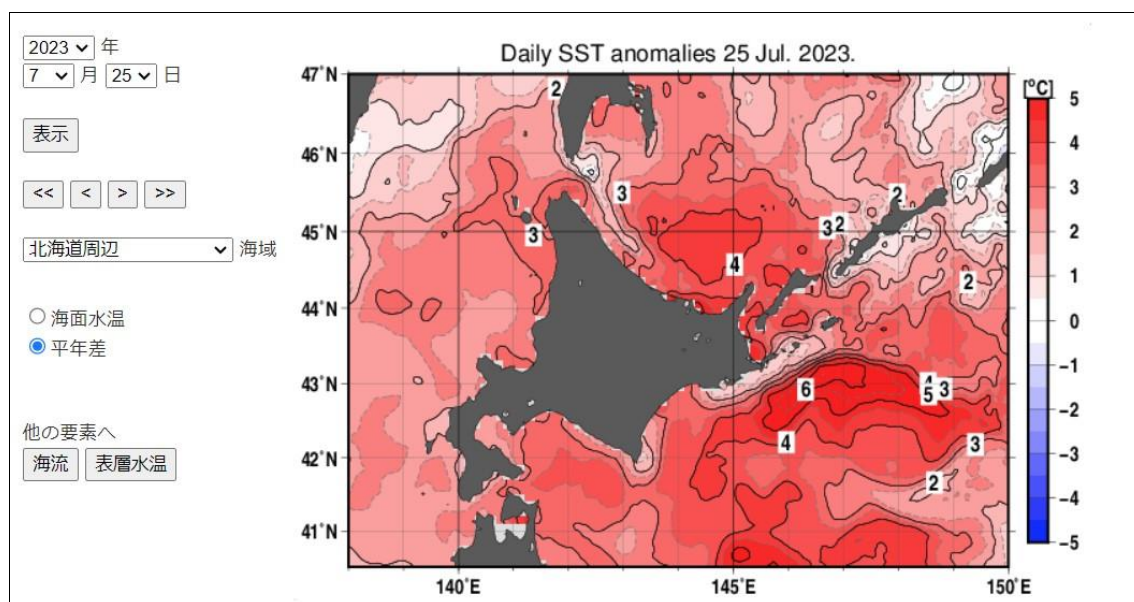


図-10) 2023 年 7 月 25 日の海水温の平年差（気象庁海洋の健康診断表より引用）

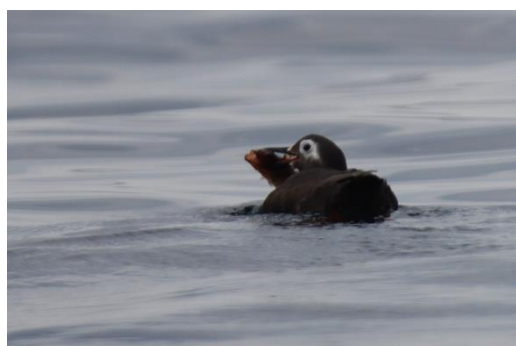


図-11) カジカ類を捕獲したケイマフリ



図-12) カレイ類を捕獲したケイマフリ

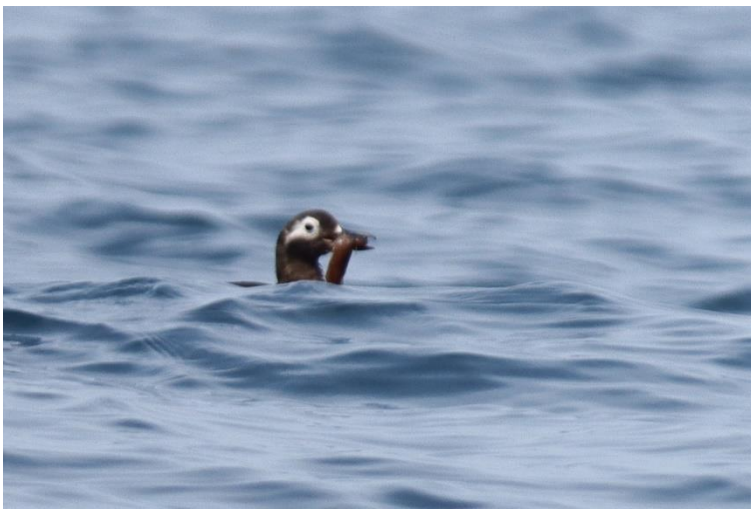


図-13) ギンギョ類を捕獲したケイマフリ

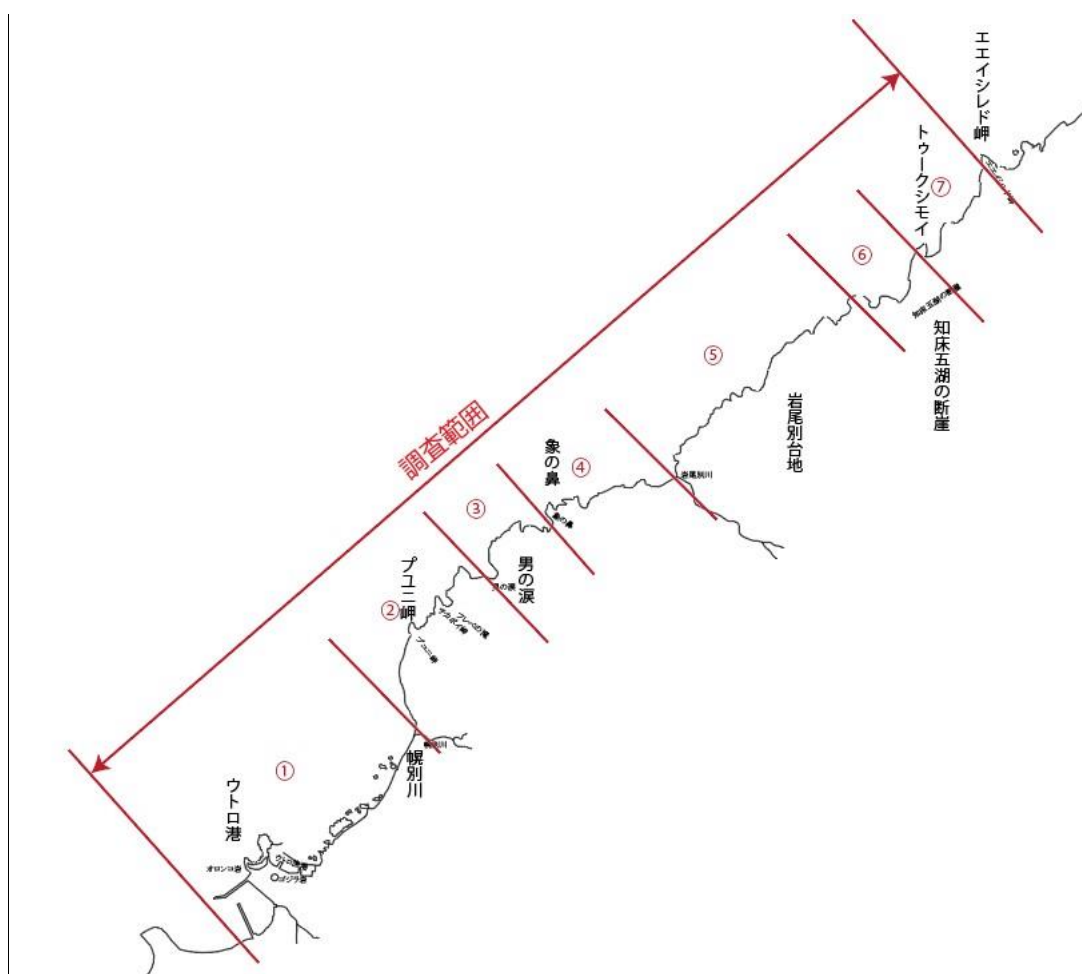


図-14) カジカ類を捕獲したケイマフリ

4. 知床半島ウトロ地域における海鳥繁殖期のオジロワシ生息分布状況調査

<調査目的>

知床半島のウトロ側は国内でも有数の海鳥の繁殖地でケイマフリ・ウミネコ・オオセグロカモメ・ウミウが繁殖している。しかし、近年になり、ウミネコ・オオセグロカモメ・ウミウの営巣数が減少しており、オジロワシによる捕食圧が減少の要因のひとつになっていると考えられている。そこで、オジロワシの個体数とその年齢構成、オジロワシによる海鳥への直接的な捕食行動について調査し個体数推移をモニタリングすることを目的とする。



図ー1) 調査位置図と調査範囲

<調査方法>

ケイマフリ生息状況調査と同時進行で調査を行った。2023年6月12日から7月27日の計10回の調査を行った。また、7月21日・7月23日は海上においてオジロワシ定点調査を行った。調査地点はプユニ岬周辺から男の涙周辺で調査を行った。

調査日の設定は、同じ条件で調査できるよう波高が1 m以内の日とし、雨天のときは調査を行わなかった。調査時間については、調査海域の東側に崖がそびえており、早朝は岸に近い海域が日陰になり逆光で目視調査が困難であるため、充分日が当たる午前10時から11時まで開始し、各回2時間程度調査を行った。ただし、波高や天候により調査時間を変更した。調査範囲はケイマフリ生息状況調査と同じウトロ港からエエイシレド岬までとし、岸から約600m以内を調査した。調査航路は、ウトロ港からプユニ岬間は直線的に航行し、プユニ岬からエエイシレド岬間は往路約50m～100m沖を、復路は約400m沖を航行して陸上および上空のオジロワシを調査し、その個体数と年齢を地図上にトレースして記録した。

〈調査結果〉

表-1) オジロワシの個体数

No	調査日	オジロワシ				合計	備考
		成鳥	亜成鳥	幼鳥	不明		
1	6月12日					0	
2	6月22日					0	
3	6月23日					0	
4	6月28日	1	1			2	
5	7月3日	2				2	
6	7月10日	1				1	
7	7月20日	1	1			2	
8	7月21日	1	1			2	定点調査
9	7月23日		5			5	定点調査
10	7月27日	3		2		5	

〈考察〉

2023年のオジロワシの最大個体数は7月23日と7月27日の5羽であった。7月23日は成鳥0羽・亜成鳥5羽、7月27日は、成長3羽・幼鳥2羽であった。オジロワシの幼鳥の初認は7月27日であった。2021年は最大個体数17羽、2022年は最大個体数9羽で、徐々に個体数は減少している。



図-2) オジロワシを攻撃するオオセグロカモメ

5. 2023 年知床半島における海鳥の繁殖状況

<調査対象種と調査範囲>

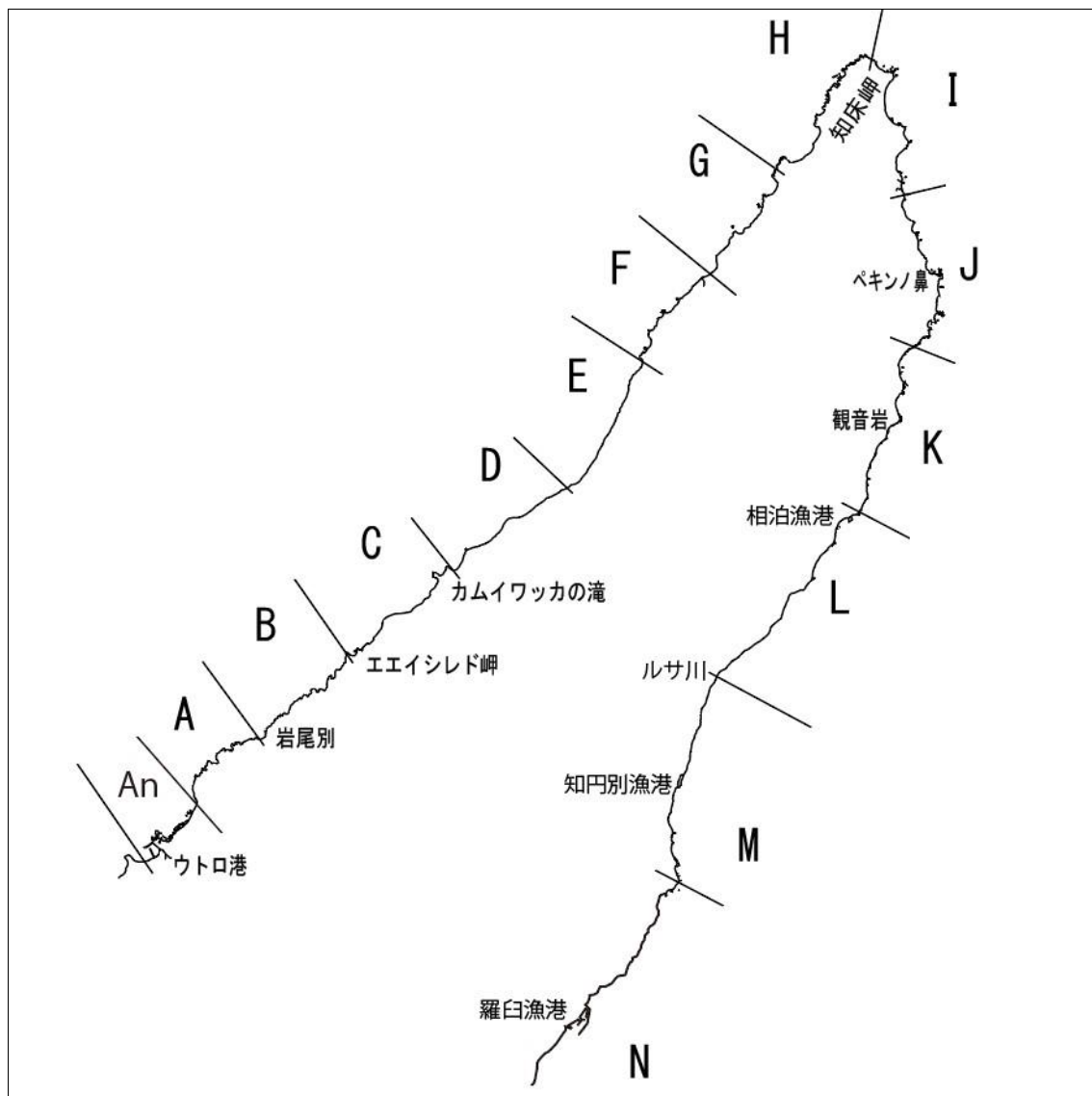


図 - 1) 知床半島調査地区図

本地域で繁殖するウミウ、ウミネコ、オオセグロカモメを調査対象とした。斜里町ウトロ漁港周辺から羅臼町漁港周辺までをAからNまでの15区域に分け、AからKまでは、小型船舶を用いて海上から調査し、An・LからNは陸上から調査を行った。各海鳥種の営巣数を数えた。今年の調査より世界遺産地域内と外を区別するために、地域外のAnとLからNを新たな区域として設定して調査を行った。

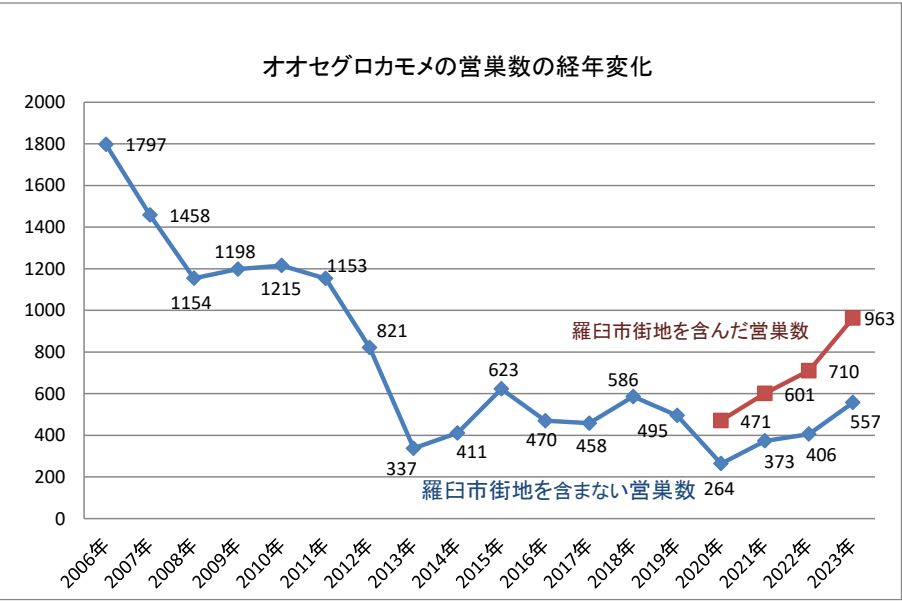
<調査結果と各海鳥の営巣状況と考察>

・2023 年知床半島における海鳥類の営巣数

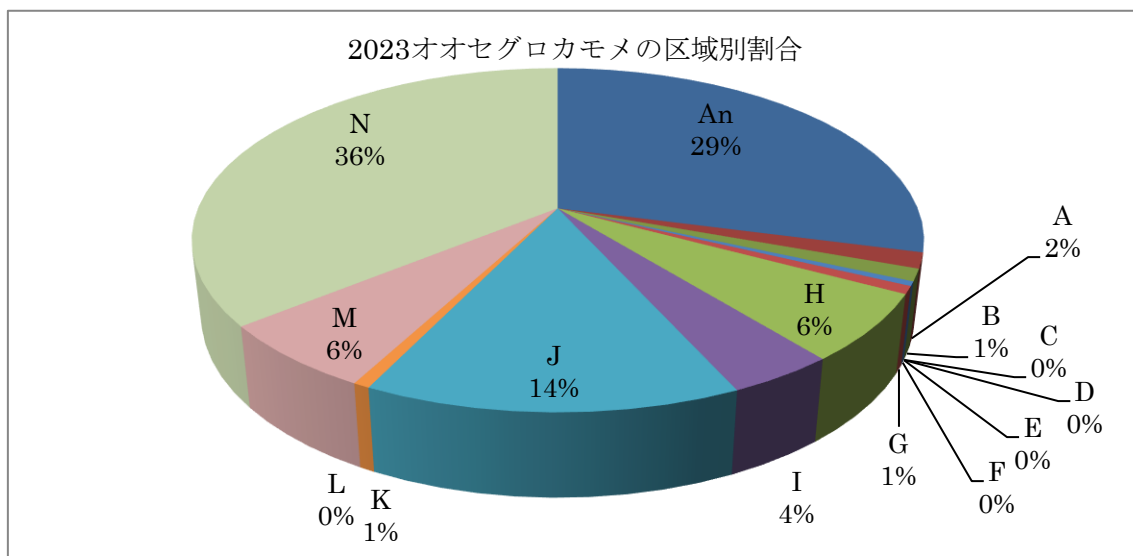
・オオセグロカモメ

表 - 1) オオセグロカモメの営巣数の経年変化

区域/年	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	
A	599	637	785	569	806	642	806	784	760	1046	745	547	604	
B	139	238	223	354	421	31	109	95	100	91	63	15	50	
C	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	17	0	0	
D	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	10	0	0	
E	0	0	0	0	0	0	0	12	—	0	0	0	0	
F	73	271	355	191	21	20	63	16	—	81	17	38	38	
G	29	68	62	36	0	0	28	20	—	34	10	4	9	
H	80	257	284	297	69	119	165	153	—	163	154	188	115	
Total	920	1471	1709	1447	1317	812	1171	1080	860	1415	1016	792	816	
I	—	—	—	—	—	—	105	148	—	88	102	69	91	
J	—	—	—	—	—	—	189	303	—	231	238	239	220	
K	—	—	—	—	—	—	23	77	—	63	102	54	71	
Total							317	528		382	442	341	382	
知床半島全体														
Total	—	—	—	—	—	—	1488	1608	—	1797	1458	1154	1198	
区域/年	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
An	Aに含む										54	212	223	280
A	560	527	412	196	161	291	308	259	398	294	37	4	17	14
B	46	0	18	0	0	0	3	2	7	5	7	2	2	11
C	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
D	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
E	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
F	58	30	16	39	6	34	0	4	8	2	0	2	1	4
G	4	10	4	7	10	15	8	2	6	0	0	0	12	7
H	128	180	96	49	115	126	79	97	75	65	101	69	65	61
Total	796	747	546	291	292	466	398	364	494	366	201	289	320	377
I	73	78	45	2	4	46	8	9	23	18	2	11	41	39
J	219	194	164	11	46	66	33	51	54	40	49	58	27	135
K	127	134	66	33	69	45	31	34	15	71	12	15	18	6
	1215	1153	821	337	411	623	470	458	586	495	264	373	406	557



図－2) 2023 年オオセグロカモメの経年変化



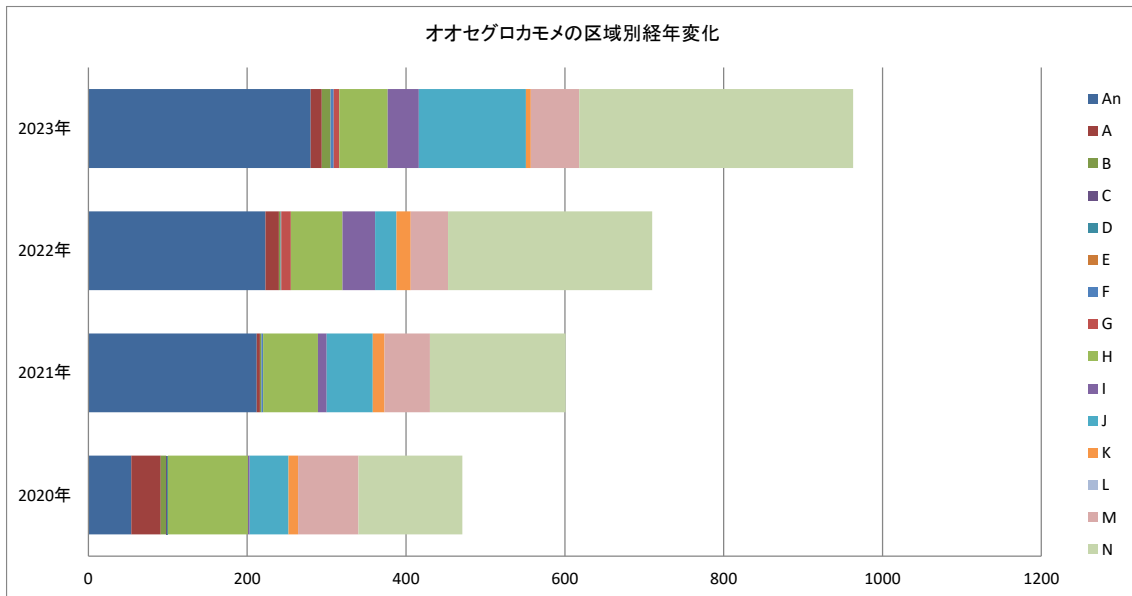
図ー3) 2023 年オオセグロカモメの区域別割合 (An, A～H はウトロ側・I～N が羅臼側)

1999 年は斜里側の営巣地のみで 1709 巣があり、知床半島全体で営巣数調査を開始した 2003 年から 2020 年までの間で、最も営巣数が多かった年は、2006 年の 1797 巣であった。2020 年は調査開始以来最も少ない 257 巣であり、2021 年 373 巣・2022 年 416 巣と回復傾向 2023 年は 557 巣とさらに回復した。(L 域から N 域の羅臼市街地を除く)

営巣地別で比較すると斜里側のプユニ岬では、2006 年 159 巣・2010 年 44 巣・2015 年 26 巣と減少し 2020 年は 0 巣であったが 2021 年 4 巣・2022 年 11 巣となり営巣数も回復傾向にあったが 2023 年は 8 巣に減少した。

ウトロ港に隣接するオロンコ岩では、2006 年 241 巣・2010 年 203 巣・2015 年 210 巣・2019 年 211 巣と 200 巣以上の営巣を保持してきた、しかし 2020 年は 14 巣と激減したが 2021 年 108 巣・2022 年 179 巣と回復したが 2023 年は 97 巣と減少した。また、ウトロ市街地の廃屋の屋上では、隣接するガソリンスタンドからの糞害への苦情に対応して斜里町役場が毎年産卵した卵の除去を行っている。2018 年 280 個・2019 年 137 個・2020 年 153 個が除去された。オオセグロカモメの一腹卵数は 2.5 卵というデータから推察値すると、2018 年 112 巣・2019 年 54 巣・2020 年 61 巣であったが、2021 年からは営巣数を数えることができ 2021 年 16 巣・2022 年 14 巣・2023 年 16 巣を確認した。しかし、巣は全て撤去された。

羅臼市街地では、国後展望台からの 6 月 20 日の観察で 44 巣を確認した。羅臼漁港の防波堤では 6 月 20 日に 236 巣を確認した。7 月 17 日は 14 巣での抱卵と雛 49 羽を確認し 7 月 31 日には 3 巣の抱卵と雛 38 羽、巣立時期直前の 8 月 14 日は雛 12 羽であり、繁殖成功率は悪かったと考えられる。知床別漁港では、6 月 20 日に 58 巣を確認した。7 月 17 日には雛 44 羽と 14 巣での抱卵を確認した。7 月 31 日には雛 1 羽のみの確認となり、繁殖はほとんど失敗したと考えられる。



図一4) オオセグロカモメの区域別経年変化



図一5) 2023 年 7 月 17 日知円別漁港のオオセグロカモメの営巣地、その後この雛はすべていなくなった。



図-6) 2023 年 7 月 17 日羅臼漁港のオオセグロカモメの営巣地

・ウミウ

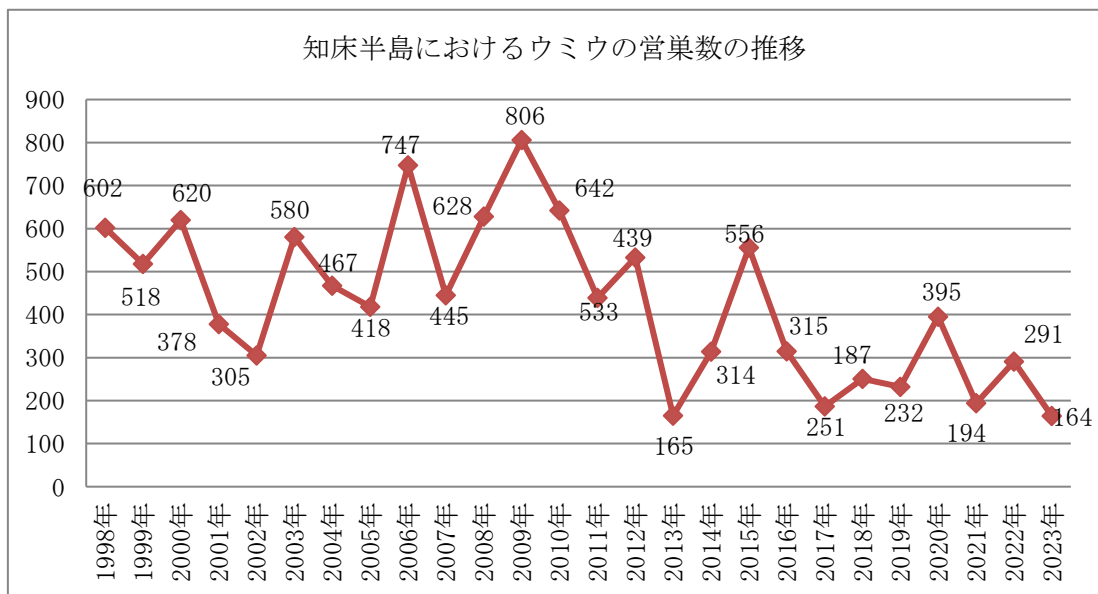
表 - 2) 知床半島におけるウミウの営巣数の経年変化

区域/年	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	釧路漁港
An	AIを含む													
A	270	194	200	214	157	63	231	97	218	304	214	338	559	
B	140	159	162	209	0	114	229	137	200	206	127	113	137	
C	0	0	0	0	0	80	0	0	—	0	0	0	0	
D	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	0	0	0	
E	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	0	0	0	
F	44	66	49	67	96	0	14	15	—	14	7	21	14	
G	2	20	1	23	46	0	0	63	—	33	0	9	21	
H	106	163	106	107	79	48	64	64	—	144	51	62	24	
Total	562	602	518	620	378	305	538	376	418	701	399	543	755	

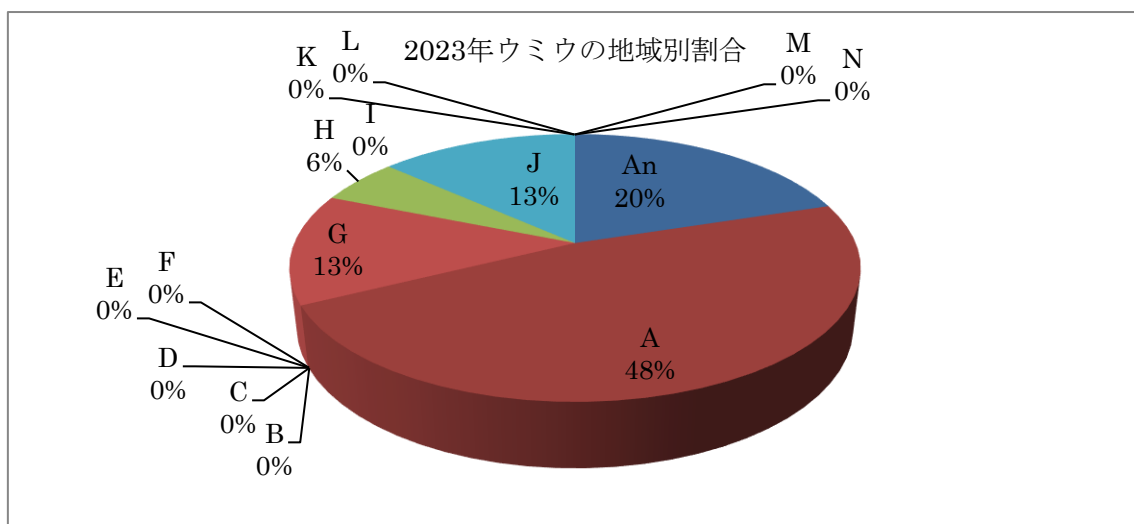
I	—	—	—	—	—	—	—	54	—	0	0	18	0	釧路漁港
J	—	—	—	—	—	—	42	37	—	36	41	62	44	
K	—	—	—	—	—	—	0	0	—	10	5	5	7	
L	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
M	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
N	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
Total	—	—	—	—	—	—	42	91	—	46	46	85	51	
知床半島全体														
Total	562	602	518	620	378	305	580	467	418	747	445	628	806	

区域/年	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	釧路漁港	
An	AIを含む											100	43	68		33
A	302	259	298	92	90	291	153	70	59	88	203	102	144	78		
B	157	76	75	19	161	145	62	25	133	78	67	4	41	0		
C	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14	0	0	0		
D	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
E	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
F	19	0	36	0	10	10	0	0	0	0	0	7	1	0		
G	0	0	9	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	22		
H	91	51	79	44	37	78	88	78	34	35	80	47	53	9		
Total	569	386	497	155	307	524	303	173	226	201	364	160	239	142		

I	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	47	0	羅臼漁港
J	54	46	0	0	7	0	0	0	0	0	24	25	0	22	
K	19	7	36	10	0	14	0	14	25	29	0	0	0	0	
L	—	—	—	—	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
M	—	—	—	—	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
N	—	—	—	—	—	18	12	0	0	2	7	9	5	0	
Total	73	53	36	10	7	32	12	14	25	31	31	34	52	22	
知床半島全体															
	642	439	533	165	314	556	315	187	251	232	395	194	291	164	



図ー7) ウミウの営巣数の経年変化



図ー8) 2023 年ウミウの区域別割合

1998年に調査を行ってから過去最低の164巣であった。最も多い営巣地は、A域の78巣で、次に多かったのは、An域のオロンコ岩の33巣であった。ここでは、2021年の122巣をピークに2022年は59巣に減少し2023年はさらに減少し33巣であった。オロンコ岩が減少した原因としては、下には大型観光船おーろらの駐車場がある。2022年は観光船事故が影響しおーろらの運航が5月20日からだったので、警戒心の強いオジロワシが人出が少ないため飛来回数が増えウミウの営巣に影響を与えた可能性もあると考えていた。

しかし、2023年にもオジロワシの影響があり、5月8日にはオジロワシがオロンコ岩の抱卵中のウミウの営巣地に侵入し、この岩で営巣していた抱卵中の巣を一時すべて放棄してしまった。その後、再産卵し抱卵する。

また、知床岬に近いH域のタカサタウニと羅臼側のI域のカブト岩で営巣地が消滅した。
復活した営巣地としては、眼鏡岩の22巣であった。

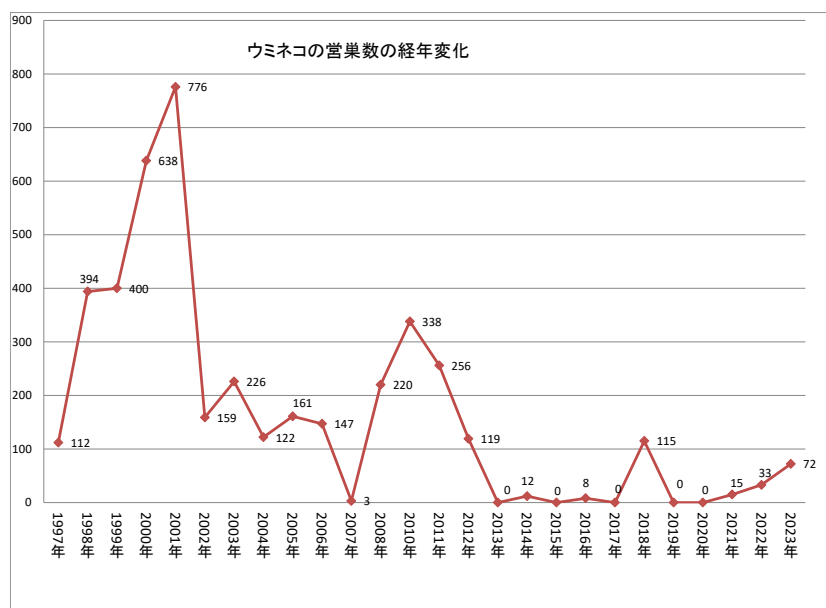


図－9) 2023年5月8日オロンコ岩のウミウの巣にとまるオジロワシ

・ウミネコ

表－3) ウミネコの営巣数の経年変化(1997年～2023年)

区域/年	1997年	1998年	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2010年	
An	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	斜里町側
A	94	280	346	612	772	159	226	122	134	0	0	6	56	
B	18	114	54	26	4	0	0	0	27	147	3	214	282	
C	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
D	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
E	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
F	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
G	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
H	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
Total	112	394	400	638	776	159	226	122	161	147	3	220	338	羅臼町側
I	—	—	—	—	—	—	0	0	0	0	0	0	0	
J	—	—	—	—	—	—	0	0	0	0	0	0	0	
K	—	—	—	—	—	—	0	0	0	0	0	0	0	
L	—	—	—	—	—	—	0	0	0	0	0	0	0	
N	—	—	—	—	—	—	0	0	0	0	0	0	0	
M	—	—	—	—	—	—	0	0	0	0	0	0	0	
Total	—	—	—	—	—	—	0	0	0	0	0	0	0	知床半島全体
Total	—	—	—	—	—	—	226	122	161	147	3	220	338	
区域/年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	
An	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	斜里町側
A	0	0	0	12	0	8	0	105	0	0	0	28	41	
B	256	119	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
C	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
D	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
E	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
F	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
G	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
H	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
Total	256	119	0	12	0	8	0	115	0	0	0	28	41	羅臼町側
I	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
J	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15	5	31	
K	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
L	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
N	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
M	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
Total	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15	5	31	知床半島全体
Total	256	119	0	12	0	8	0	115	0	0	15	33	72	



図－10) ウミネコの営巣数の経年変化

2001年の776巣をピークに減少している。2009年には0巣となり、2010年には388巣と回復したが2013年には再び0巣となった。2018年には115巣と再び回復した。2019年と2020年の営巣数は0巣であった。2021年は15巣、2022年33巣を確認したがヒナの巣立ちは確認できなかった。2023年は、フレペの滝下で41巣、羅臼側の眼鏡岩周辺で31巣の72巣を確認した。フレペの滝下では7月20日14羽の巣立ちを確認した。眼鏡岩周辺の営巣地は繁殖途中で放棄された。



図 - 11) 2023年7月14日フレペの滝下のウミネコの営巣地赤丸が巣立ち近い雛



図 - 12) 2023 年 7 月 20 日 親に餌をねだるウミネコの雛 (左が雛・右が親鳥)

6. 知床世界自然遺産地域科学委員会海域ワーキンググループの資料案の作成

「知床世界自然遺産地域科学委員会海域ワーキンググループ」において、「知床世界自然遺産地域長期モニタリング計画」に位置付けられているモニタリング項目 No.6「ケイマフリ・ウミネコ・オオセグロカモメ・ウミウの生息数、営巣地分布と営巣数調査」についての2021年度の調査結果をまとめ、提出した。以下に提出した資料を掲載する。

2023 年知床半島における海鳥の繁殖状況

・オオセグロカモメの繁殖状況

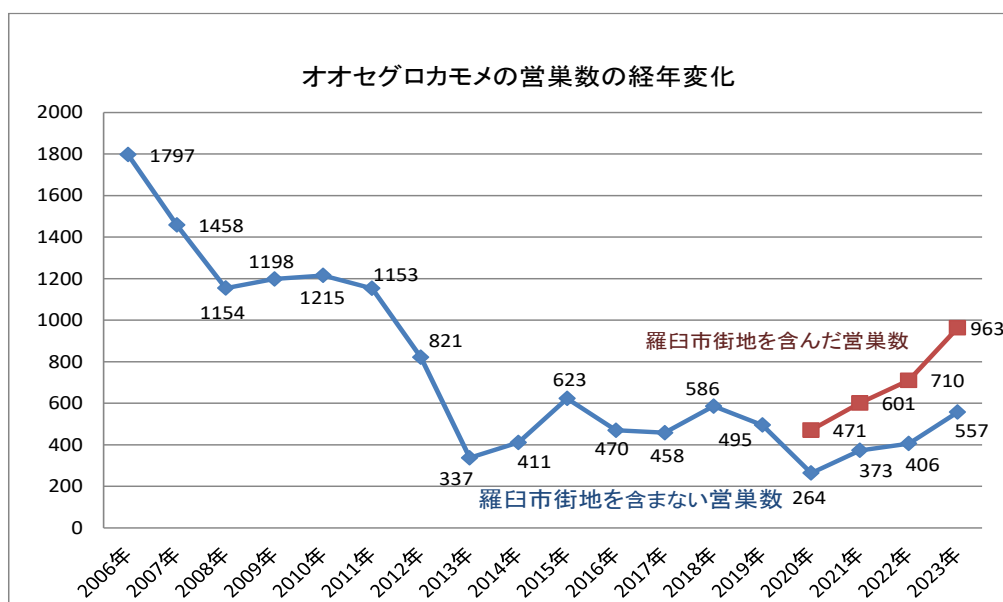


図-1) 2023 年オオセグロカモメの経年変化

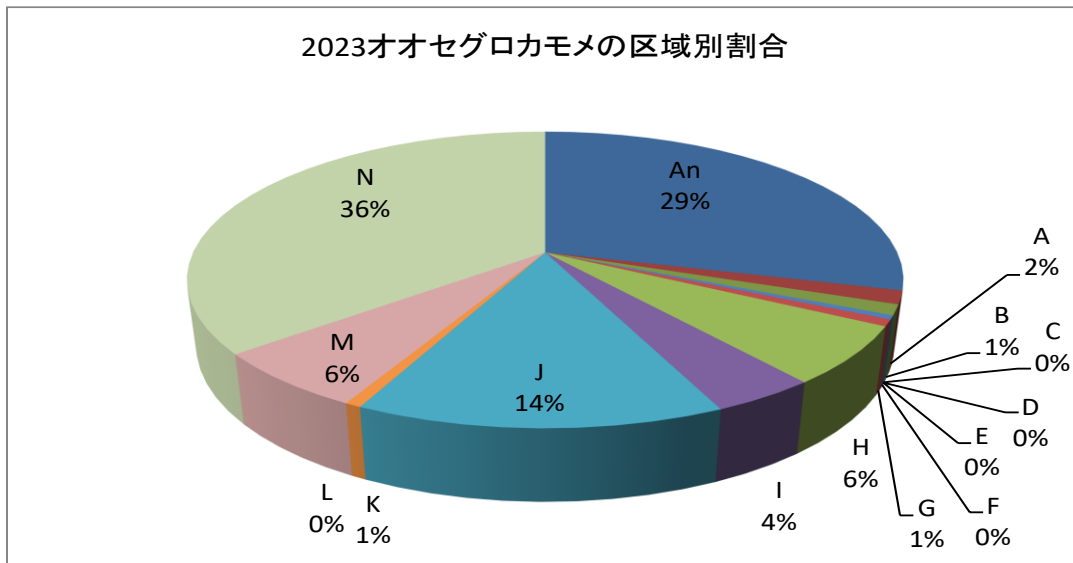


図-2) 2023 年オオセグロカモメの区域別割合 (A～H はウトロ側・I～N が羅臼側)

An はウトロ市街地・M と N は羅臼市街地。M と N では、防波堤で繁殖し失敗する営巣個体が多かった。羅臼側の J の岩礁で営巣地ではヒグマが上陸し繁殖地を攪乱した。繁殖は失敗したと考えられる。比較的成功しているのは、ウトロ側のオロンコ岩などの市街地と羅臼側の市街地の家屋の屋根であった。

・ウミウの繁殖状況

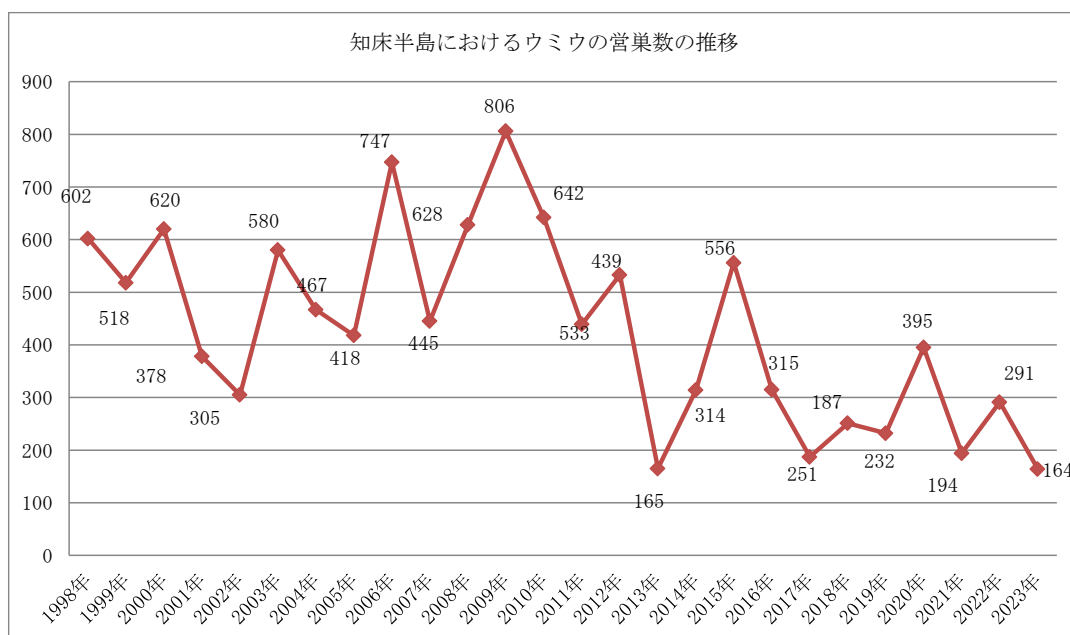


図-3) ウミウの営巣数の経年変化

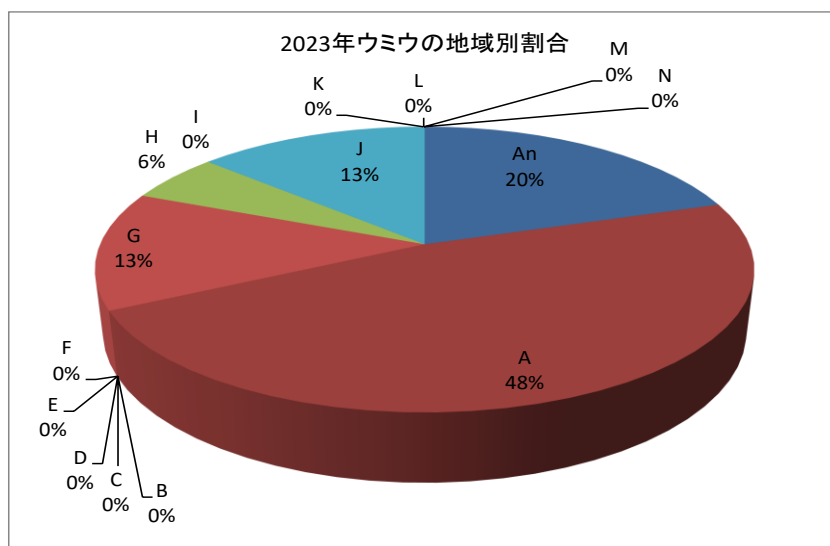


図-4) ウミウの営巣数の区域別割合

1998年に調査を行ったから過去最低の164巣であった。Anのオロンコ岩で33巣営巣し、Aのプユニ岬から岩尾別の間の78巣を確認した。

・ウミネコの繁殖状況

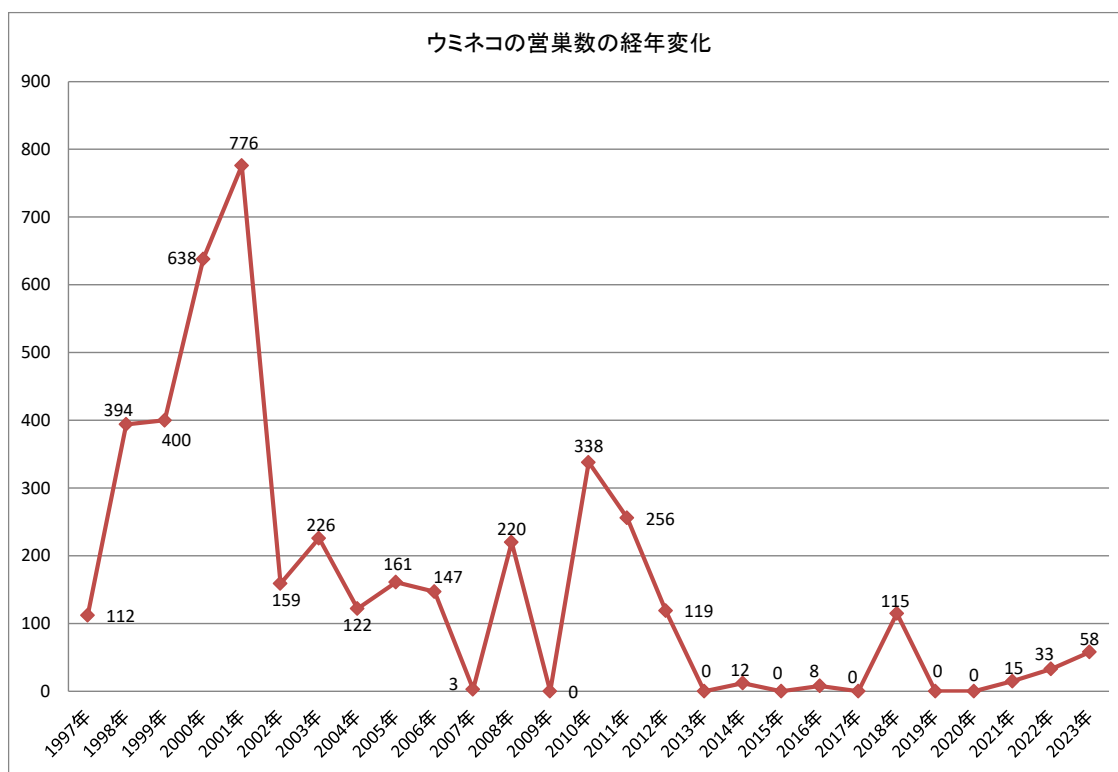


図-5) ウミネコの営巣数の経年変化

羅臼側で31巣を確認したが、雛が成長する様子を観察されなく、繁殖はすべて失敗したと考えられる。ウトロ側では巣立ちした雛が数羽観察することができた。繁殖が成功したのは、ほぼ5年ぶりである。

・ケイマフリの生息状況

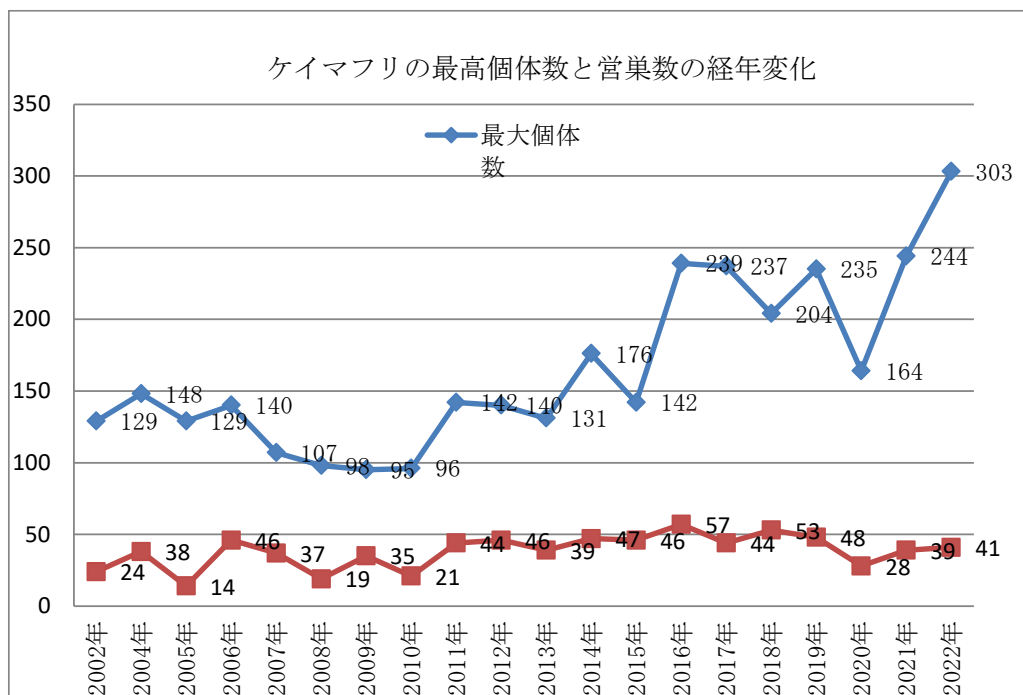


図-6) ケイマフリの個体数と営巣数の経年変化

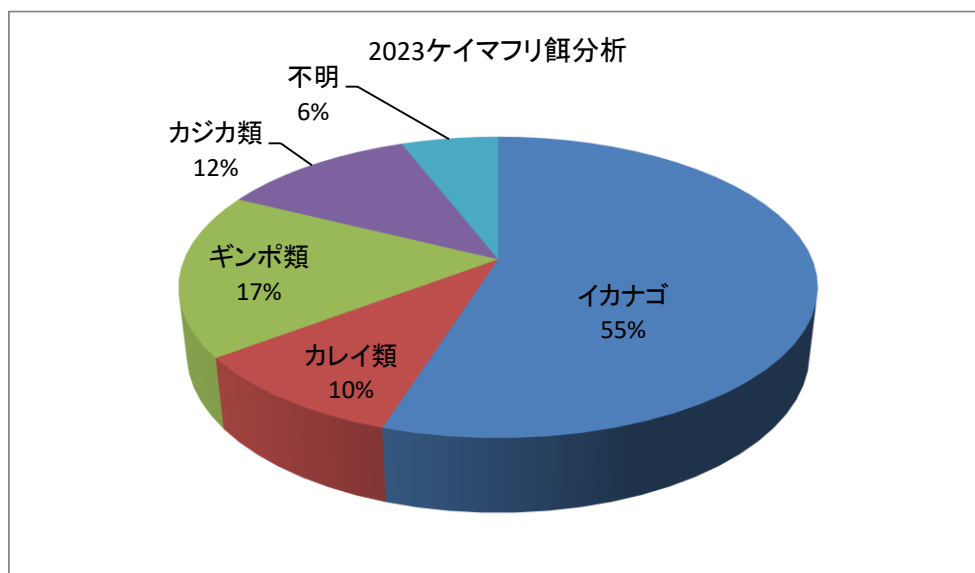


図-7) ケイマフリの雛へ給餌する餌分析

イカナゴの割合が55%と減少した。2022年は76%、2021年48%であった。今年、イカナゴの割合が下がったのは、水温17℃以上を嫌うため平年より高い海水温が影響したと考えられる。個体数も昨年と比較して81羽も減少したことが気掛かりである。

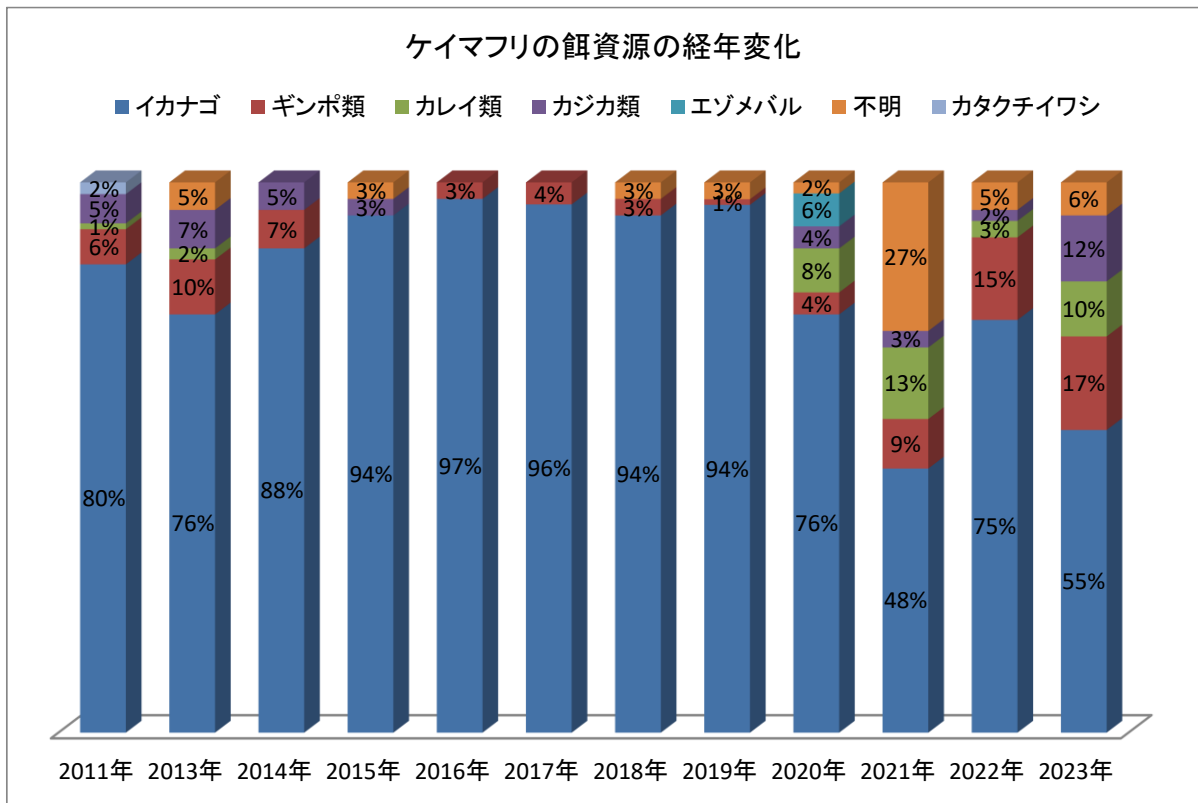


図 - 8) ケイマフリの餌資源の経年変化